

台湾情報誌

交流

2015年6月 *vol.891*

公益財団法人 交流協会
Interchange Association, Japan

台北俳句会に参加して
～台北俳句会45周年に寄せて～



交流

2015年6月
vol. 891

目次

CONTENTS

台北俳句会に参加して ～台北俳句会45周年に寄せて～ (西本綾乃)	1
日台ビジネスアライアンスによる中国展開事例を探る— 1 —杭州友嘉高松機械有限公司へのインタビューより— (藤原 弘)	9
台湾映画の異色の新人監督魏徳聖と先住民族 (戸張東夫)	13
2015年第1四半期の国民所得統計及び予測	18
2015年第1四半期国際収支を発表	26
3年間の交流協会での勤務を終えて (福増伸一)	28
台湾通信	30

※本誌に掲載されている記事などの内容や意見は、外部原稿を含め、執筆者個人に属し、公益財団法人交流協会の公式意見を示すものではありません。

※本誌は、利用者の判断・責任においてご利用ください。

万が一、本誌に基づく情報で不利益等の問題が生じた場合、公益財団法人交流協会は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

● ● 交流協会について ● ●

公益財団法人交流協会は外交関係のない日本と台湾との間で、非政府間の実務関係として維持するために、1972年に設立された法人であり、邦人保護や査証発給関連業務を含め、日台間の人的、経済的、文化的な交流維持発展のために積極的に活動しています。

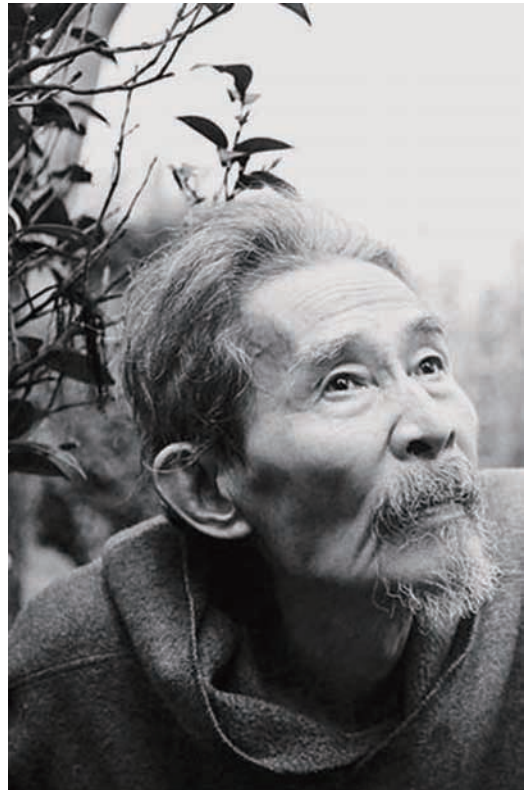
東京本部の他に台北と高雄に事務所を有し、財源も太宗を国が支え、職員の多くも国等からの出向者が勤めています。

台北俳句会に参加して ～台北俳句会45周年に寄せて～

台北俳句会日本会員 西本 綾乃

台北市中山駅にほど近い、南京東路に面した林森・康楽公園¹の向かいにある国王大飯店の2階のレストランでは、毎月第二日曜日になると流暢な日本語が飛び交っている。ここに集うのは台北俳句会の会員であり、日本統治時代のおよそ1930年以前に生まれた日本語世代と呼ばれる方々と、30代～60代の台湾在住の日本人と日本語を流暢に話す台湾人である。台北俳句会会員の殆どが、医師や大学教員など専門職や研究職、また自営業者であり、そこに日本からの俳句結社やお客様などが加わり、和気あいあいと俳句を楽しんでいる。通常、台北俳句会は11時半から開始となっているが、会員の皆さんは大体10時半頃から三々五々集まって来られるので、事務局を取り仕切られている高阿香氏や杜青春氏などは毎回準備に余念がない。

台北俳句会は1970年7月に開始、以降黄靈芝会長が主宰を務められている。黄靈芝会長は、1970年に中国語の短編小説「蟹」で第1回呉濁流文学賞を受賞し、2004年に日本語で執筆された「台湾俳句歳時記」で第3回正岡子規国際俳句賞を受賞している。2006年秋の外国人叙勲で、長年に亘る俳句会活動が評価を受け、日本政府から旭日小綬章を受章している。現在黄会長は健康上の理由で毎回の参加は叶わないため、記念大会など重要な局面では、幹事役の高阿香氏の取り仕切りにより、句会が開催されることも多く、台北俳句



陳文發写真集「作家的書房」(允晨文化出版)2014年8月発行より

会記念大会の句集などは全て高阿香氏が編纂している。台北俳句会の創始メンバーはほぼ全員が台北歌壇(現・台湾歌壇)²会員であったとのことだが³、高阿香氏は台北歌壇でも重要な役割を担っており⁴、同氏は、2005年には「心の支柱：

² 「台北歌壇」は犬養孝氏に師事した呉建堂氏により設立された短歌の結社であり、1967年11月に「台北短歌研究会」として発足した。1968年1月に「台北歌壇」第1輯を発行して以来、半世紀に亘り活動を続けている。2004年に「台湾歌壇」に名称を変更した。

³ 磯田一雄(2012)「戦後台湾における日本語俳句の進展と日本の俳句結社—『七彩』・『春燈』・『燕巢』とのかかわりを中心に」p.2～3、大阪経済法科大学アジア研究所東アジア研究第57号

¹ 康楽公園は、日本統治時代に台湾総督も埋葬されていた日本人墓地があった場所とされる。国王ホテル2階からはこの公園が一望に見渡せる。

歌文集」を出版している。また、同じ台北歌壇出身の林美氏や游細幼氏とは女流歌人同志として交流が深く、1999年11月18日～25日に交流協会日台交流センターが招聘した台湾女流歌人ミッションとして、高阿香氏を団長に、游細幼氏、林美氏ほか7名の女流歌人が来日され、俵万智さんをはじめ日本の歌人や歌人団体、及び大岡信さんなどの文化人との交流を行った。

春曉の天地讃えて揚雲雀 (高阿香)
 葉桜や歩幅に適う石畳 (游細幼)
 カボックは咲いたかしらとまはり道 (林美)

私は台北俳句会で末席に坐している日本在住の会員であるが、10年ほど前に台日商務協議会会長の鄭世松氏(元中国国際商業銀行総経理)より、当時事務局長を務められていた陳錫恭氏(故人)を御紹介頂き、それがご縁で台北俳句会に入会させて頂いた。会員宛に毎月届く台北俳句会の会報でお知らせのある兼題⁵を元に作句し、句会に間に合うように投句を行う。これは現在事務局で、会員からの投句の取りまとめや会報の編集を行っておられる、この杜青春氏の労によるところが大きい。

杜青春氏は、台北俳句会のほか、久保田万太郎氏が1946年に創始した春燈俳句会の台北支部として発足した春燈俳句台北句会⁶や、台湾川柳会



前列左端より福島せいぎ先生、黄靈芝会長、筆者

の事務局も兼任されている。2013年1月からは、これまで高氏が担当されていた句会プリントや句報作成一切を、杜青春氏が担当することになり、メールでの会報発信やメールによる投句という試みも行われている。また、ご高齢の会員や日本在住の会員など、私のように句会出席が叶わない会員のために、会の前日にメールによる事前選句を行えるようになった。

新正や多言語家族一同に (陳錫恭)
 風車あなたの首もよく回る (杜青春)

台北の会員で東吳大學阮文雅副教授によれば、1971年に発行された『台北俳句集』第1集に投句した同人25人のうち、現在も投句を続けているのは、主宰の黄氏と、張清瑛氏、北条千鶴子氏であり⁷、曉蘭(陳蘭美)氏も同様である。選句は創設以来黄靈芝会長の手書きプリントを資料として進められてきたが、近年は杜氏が全投句を取りまとめたペーパーを使用している。俳句会当日、入り口で受付を済ませた会員は資料と選票を持っ

⁴ 蔡華山(2005)『「台湾歌壇」の伝承的考察』台湾日本語文学報創刊20号記念号

⁵ 兼題とは、兼日(期日より前の日)の題という意味で、句会開催に先立って出される題。俳句の場合には、主に季語となる。

⁶ 1980年に「台北春燈句会」として発足したが、この句会には独自の会員以外に、設立当初から多くの台北俳句会員が参加している。(黄葉氏、北条千鶴子氏、陳蘭美氏、廖運藩氏、呉文宗氏、杜青春氏等。)このうち、廖運藩氏、呉文宗氏は春燈俳句会の同人でもあり、『春燈』誌冒頭の同人句集欄「燈下集」に毎月投句している。春燈俳句台北句会の由来については、磯田(2012)に詳しい。

⁷ 阮文雅(2008)「異国人の日本語文学—台北俳句会の一考察」植民地文化学会発表論文。阮先生は、2008年度に交流協会の専門家招聘で来日された。



披講される高阿香さん

て着席する。そして昼食を取りながら和やかに歓談し、その間に五句を選句するという流れである。食事をゆっくりと楽しんだのち、会員から集めた選句が読み上げられ、披講が行われる。かつては、黄会長からの講評が行われていたが、句歴の長い同人の先輩方からの手厳しいが細やかな指摘は毎回大変勉強になる。

土龍（トージョン）を手掴みで売る鹿港訛
（ロツカンキュー）（張清瑛）
秋深む国へ発ちゆくバナナ船（北条千鶴子）
葱頭の匂いの染みてよき夫（阮文雅）

阮（2008）によれば、日本統治時代の台湾で、台湾の人々は日本語教育を強いられたが、こうした日本語世代の一部は、日本語についての高度修養を得て、文学的営為として自分の感情を俳句によって表現するほどにまでなったという。しかし、戦後、国民党による戒厳令下において、日本語使用や日本語の結社が実質禁止されたという。台北俳句会は、こうした時代背景の中、「中国語や台湾語が飛び交う台北の街で、彼らは日本語で同人と挨拶を交わし、日本語で俳句を作り、日本語で俳句を吟味し討論した。台湾では異質な日本語の空間を保ってきた」のであった。

日本統治時代に当時の日本式の学校教育を受けた方々の俳句は、我々戦後の教育課程で育った人間と比較すると、語彙はもちろんのこと、日本語での表現の深さや感覚も素晴らしい。また、日本統治下で日本語を母語として育ったこの世代と、国民党政権下で中国語教育を受けた世代との、家族間でのギャップや感じ方の違いを読んだ句も少なくない。

からすみに台湾を恋ふ子の便り（文錫煙）
顔をみせてくれたる春を惜しみけり（李秀恵）
漢菓の老舗の机水芭蕉（李錦上）
端居して阿弥陀の便り待ちにけり（呉文宗）
花束が競ふ墓苑や清明節（呉昭新）
天と地に待ち人ありて墓参り（周月坡）
蒸し上ぐる粽を待ちし子ら遠く（高淑慎）
蛇華人傷つけて傷ついて（暁蘭・陳蘭美）
夏蝶や葦筍に眠るパスポート（黄葉）
阿里山を闇にしづめて天の川（楊海瑞）
金針花咲く頃人を憶ふ頃（劉竹村）
捨て猫の早や初恋の猫となる（廖運藩）
芒野のむかうにみえる茜色（謝雲嬌）
ホッタラと一気に千せり生ビール（王百禄）

長年台北俳句会に参加し尽力をされている三宅節子氏や、高雄義守大學應用日語學系副主任で講師でもある花城可裕先生など、台湾在住の日本人会員の継続参加が多いことも、台北俳句会の特色である。花城先生は、自身の大学で日本語教育に俳句を取り入れているほか、台湾の学生の俳句活動を促進するための非営利団体である台湾学生俳句育成会を組織し、毎年高雄市義守大学で学生日語俳句大会を実施するほか、会誌『ゆうかりぶたす』の発行などを行っている。

庄歳銭赤子は深く眠りけり（三宅節子）
はっきりとしない私に朧月（花城可裕）

日本からの投句を行う日本人会員も多く、磯田一雄先生、下岡友加先生などは、日本での研究の傍ら、毎月欠かさずに投句を行っている。成城大学名誉教授の磯田先生は、台湾における「俳句」は「台湾的なもの」の創出によって、ノスタルジアの域を超えるものがあると指摘し、黄霊芝会長の俳句に対する理念や句評を含めた、台湾の戦後俳句と、日本統治期の植民地教育についての多数の論文を執筆されている⁸。また県立広島大学准教授の下岡先生は、2012年に黄霊芝会長著書の『黄霊芝小説選—戦後台湾の日本語文学』(溪水社)を、2015年には『同2』を編集され、日本の読者に対し、黄会長の執筆した小説等を多数紹介している。さらに下岡先生は、黄会長への丹念な聞き取りによるインタビュー録を論文として纏めており⁹、台湾の日本語文学についての研究を進められている。

犬同士見て見ぬふりや春隣

(楊硯涯・磯田一雄)

吉野山三万本の桜抱き

(下岡友加)

今にしてアロハの似合ふ齢かな

(鳥羽田重直)

過疎の村鶯の声透き通り

(増田信雄)

また、日本からの投句では、自らも結社を率いる羽田岳水先生¹⁰、福島せいぎ先生¹¹など錚々たる方々の句が会報や記念句集を飾ることもある。現在は不定期で送られる黄先生からの講評であるが、20年と句歴の浅い私にとっては大変勉強にな

⁸ 末尾の参考文献欄にある論文の外磯田一雄(2007)「黄霊芝の俳句観と「台湾俳句」—台北俳句会における俳句指導(句評)を中心に—」成城大学文学部紀要『成城文芸』第201号。

⁹ 下岡友加(2012、2013、2015)「戦後台湾の日本語作家の声 黄霊芝氏インタビュー(1)(2)(3)」県立広島大学人間文化学部紀要7、8、10



台北俳句会 40周年記念大会 (於: 国王大飯店)

ると共に、その独特な表現ぶりは時にはユーモラスで、いつも拝読するのを心待ちにしている。以前は句報も全て黄会長の手書きで制作され、時には講評だけで8ページ以上になったこともある。

阮(2008)によれば、台北俳句会立上げにあたっては、黄霊芝会長は元々「台北歌壇」(現・台湾歌壇)の会員であり、歌壇での活動で1970年6月に台湾でのアジア・ペンクラブ会議に参加した川端康成、中河與一、五島茂、東早苗など、日本の文芸家との交流がきっかけであったという。台南への汽車の中で「台湾にも俳句の会が欲しいという話が湧き、帰北のあと俳句の運座をした。これが台北俳句会の発足のはじめである」という¹²。

黄霊芝会長は、『台北俳句集』第25集のあとが

¹⁰ 『燕巢』主宰であった故羽田岳水氏は、台北俳句会との縁が最も深かった日本の俳人である。「台湾俳句歳時記」編纂は、羽田岳水氏の提案であったこともあり、九年間にわたり「台湾歳時記」が『燕巢』に連載された。このご縁で、台北俳句会会員で『燕巢』の同人になったり、投句されたりした方もあったという。同氏の老衰により、2010年で『燕巢』が廃刊、その後間もなく亡くなられたという。

¹¹ 俳誌『なると』を主宰されている福島せいぎ先生は、台北俳句集第39集まで特別寄稿をされており、度々来台され、定期的に台北俳句会との交流を行っている。第一句集『台湾優遊』、第二句集『台湾抄』など、台湾を詠んだ句集も出版されている。

きにおいて、台北俳句会の特徴を下記のように述べている。

- 1) よき主宰に恵まれなかった。ために大根が小根に果てたのでは？という恐れ。
- 2) 人員構成としては台湾生まれの台湾人、台湾生まれの日本人、日本生まれの日本人、日本生まれの台湾人、外国に住む人を含め、一国際的団欒の場であり舞台は複雑。
- 3) 参加の動機は、若き日への郷愁。日本語しか喋れないもの。だってAさんに誘われたから。何やらの文芸的憧れ。有耶無耶のうちに。または眠気覚ましに。
- 4) 日本の場合だと自分の気質にあった俳句社を選んで身を寄せることができるが、台湾での俳句会は一応ここしかなかったから、結社というよりはグループである。いわば一つの花壇に薔薇、百合、シネリア…その他が雑居する。そしてそれぞれがそれぞれの花を精いっぱい咲かせるのが目標。薔薇には薔薇の仏があり百合には百合の仏がある。それを引くくめての園芸を諾う度量と礼。
- 5) 半数以上の人々が短歌をも嗜み、小説や自由詩…を捌く人もいる。だってお午は和食、夕食はビフテキにしましょうね、ということもごく当たり前のことじゃないですか？そんな主張と認可（これは先に述べた文芸の完璧さを求めての各種言語の使い分けへの一具体例として、その主張は天下を闊歩できるはずだ。たとえばこの主題は短歌に適し、こちとらは俳句に適する、という場合、それを使い分けてこそ完璧は完了しよう。やみくもに相撲を謳歌しても柔道はべつに困らない。だから昼は刺身、夜は牛）。
- 6) 師は多いほどよろしい、という勧め。但し師

の言葉を鵜呑みにするのではなく、自分の胃で消化すること。でないと自分の血や肉にならない。その存念と態度への歩み寄り。

- 7) 創立の当初から、言葉の障壁により若い世代の後継者を多分持ち得ないだろう、いわば亡びを前提とした会である。空前絶後かも知れず、または生まれ変わっての一曲が奏でられるまでの、老人の無口がちな日向ぼこに過ぎないのかも知れない、そんな会。

会員の呉昭新氏は医師であり、日本統治時代に日本語の教育を受け、湯川秀樹氏等多くの著名なOBを輩出した名門京都府立一中に入学していた¹³。しかし戦況が悪くなり、昭和18年5月に日本京都から帰台したという。

1945年の終戦時には、15歳で中学2年生であったという、呉氏はこう続ける。

「当時内台航路ではすでに客船が米潜水艦に撃沈されていました。台湾に帰国する直前には、出航時日も極秘で、折角入学したばかりの名校京都府立一中の退学手続きも出来ませんでした。実は15歳ですと中学3年生たるべきですが、台湾での転学もならず、一年遅れて再試験を受けて中学に入学しましたゆえ一年遅れたのです。」

また同氏は、国民党政権下で日本語を使い続けていく困難さを次のように語っている¹⁴。

「1945年終戦と同時に台湾の知識人は一夜にし文盲となった。初めの一年はまだよかった、まだ日本語が使えたからだ。が二年目からは日本語は絶対禁止になった。今まで日本語で文芸に携わっていた人たちは筆を捨てるか外国語として中国語を習わねば生きるすべはないのだ。そして続く1946年に日本文禁止令、1947年の228大虐殺に

¹² 黄靈芝(2005)『台湾の俳句—その周辺ほか』集：俳句／世界のHAIKU—ことばを折りたたむ／響きと新しき「國文學：解釈と教材の研究」學燈社編

¹³ 当時は、一中（京都府立一中）→三高（府立第三高校）→京大がエリートコースの近道とされていた。

¹⁴ 呉昭新(2015)『台湾の俳句史』：<世界俳句 World Haiku > 2015, No. 11, pp:96-110, 世界俳句協会編、七月堂

続く白色テロと38年間続いた戒嚴令(1949~1987)、あまたの台湾人知識人が闇の中に消えた。(中略…)一夜にして文盲になった文芸作家や愛好家達のうちで、筆を捨てた人もあったが、また多くの人々が筆を握り直して新しい言語に一から挑戦した、そして多くの人たちがその障害を克服したのだ、いわゆる跨言語世代の人たちであった。はじめはたどたどしい華語だったが、日を重ねるにつれて華語を自由にこなす人の中には日本語と同じように抵触された台湾語を使う人もいた。」

このような状況もあり、台北俳句会では、台湾語読みの季語も含まれる「台湾季語」が兼題に出されることが多い。台湾に関する歳時記は黄靈芝氏が執筆した『台湾俳句歳時記』(2003)¹⁵が、台湾で最初の「俳句歳時記」と言われている。黄会長は、この台湾俳句歳時記の「あとがき」で台湾の季語についてこう述べている。

その実、『台湾歳時記』については何時か書かねばならない義務のようなものを、私は随分と前から心のどこかに端折っていた。戦前の日本領時代から受けついだ文芸の一ジャンルとしての俳句—日本文であれ中国文であれ—の文芸的または文化的意味合いを肯定するためにも、または二十数年にわたった、かなり困難な運営による台北俳句会およびそこで励んでこられた幾多の俳句詩人たちへの責任からも、いずれは書かねばならない一本ではあった。¹⁶

台湾俳句歳時記の出版により、台北俳句会は日



陳文發写真集「作家的書房」(允晨文化出版)2014年8月発行より

本の関係者から一躍脚光を浴び、2004年に第3回正岡子規国際俳句賞を受賞することとなった。この授賞式は、正岡子規の生地である愛媛県松山市で行われているが、黄会長はこの時初めて日本の土を踏んだという¹⁷。黄会長は、「松山の街並みは、私が生まれ育ったところの懐かしい台南の風景と、どこかしら似ているように思えた。」と述べている。

一方で、黄靈芝会長は、2007年の朝日新聞の取材に対し、「親日家ではありません」、「それでも私は親日本語なんです。つくづく繊細な言葉だと思う。そして自然と人とのかかわりを巧みな省略を使いながらたった17文字で表現する俳句の世界は、何年たっても究め尽くせない」¹⁸。と述べている。

台湾には他にも、台北俳句会会員を多数輩出し

¹⁵ 呉(2015)では、日本統治時代に出版された唯一の歳時記である小林李坪著『台湾歳時記』(1910)を台湾で最初の歳時記としている。但し、小林(1910)では台湾年中行事等民俗的事項を200項目余り挙げて、それに詳細な解説をしているが、例句は僅か22句しかないため俳句歳時記とはいえず、中国伝来の歳時記の系譜に属するという。

¹⁶ 黄靈芝(2003)「台湾歳時記と台湾俳句」『台湾俳句歳時記』言叢社

¹⁷ 黄靈芝(2004)「俳句に託す台湾の心—日本語で創作活動、ただ自分のためだけに」2004年11月21日付日本経済新聞「文化」欄掲載

¹⁸ 「「非親日家」台湾人の俳句の会を主宰 魅せられた『17文字』」2007年2月1日付朝日新聞



2015年新年会の様子

た「台湾歌壇」、1980年以來台北俳句会と共存している「台北春燈句会」、台北俳句会会員も多数所属する「台湾川柳会」など、日本語を用いて作句する結社が存在している¹⁹。黄会長は、こうした台湾の文壇から断交後初めて、日本政府からの外国人叙勲の榮譽を受け、2006年旭日小綬章を授章した²⁰。

「台北俳句会」とは前述の通り、黄会長曰く、「いわば亡びを前提とした会である」はずであった。しかしながら、杜青春氏や花城可裕氏のように若い世代の会員も毎回出席するなど、現在も会は毎月定例で、活発に運営されている。また毎月のように、台湾内外から来客があり、中には日本で有名な結社や著名人なども来訪される。一方で、前出の磯田氏によれば、「いわば滅びを前提とした会である」という黄霊芝先生の予言は、未だに生きているのではないかと、憂慮しているという。

¹⁹ 日本統治時代以降、台湾で多数形成された俳句や短歌の結社については磯田(2012)に詳しい。

²⁰ 1972年の台湾との断交後、四半世紀に亘り、外国人叙勲の対象者に台湾人が含まれない時代が続いた。2004年春の叙勲で旭日中綬章を受章した日本語教育と教育史の第一人者である元台湾日本語教育学会理事長の蔡茂豊氏(東呉大学客員教授)に次いで、文化交流分野では、黄氏が断交後二番目の受勲者となった。

台北俳句会の今後について磯田氏は次のように語る²¹。

「台北俳句会に、若手の台湾人俳人が今後どれだけ参加してくれるかにあるのではないかと思います。その点はまだまだ楽観できないのではないでしょうか。黄霊芝先生はいつか「なるようにしかならんですよ」と言っておられましたが、最近若手会員の一人で、台湾先住民であるイスタダ・アリーマン氏の参加に大きな関心を持っています。イスタダ氏は大変な行動家でしかも勉強家で、台湾原住民族の歳時記を作りたいとも言っています。そこで今後重要な働きをしてくれるのではないかと期待して、鳥羽田重直氏や私が同人になっている『天頂』という俳句会に勧誘しました。この5月号から彼の投句が『天頂』に載るようになりましたが、めばしい働きをしている会員は、まず例外なしに日本の短歌会や俳句会に同時に参加しているようです。短歌では北条さんや李錦上さんの『コスモス』とか、俳句では李錦上さんの『なると』とか、廖運藩さん、呉文宗さんの『春燈』とかですね。」

一筆に感謝し切れぬ八田祭

(イスタダ・アリーマン)

なぜ「台湾俳句会」は今も存続し、こうも多くの人々を惹きつけるのだろう。黄会長の「日本語」に対する愛情や複雑な思いが、日本人の心の琴線に触れるからかも知れない。2004年11月に日本経済新聞に掲載された黄会長の寄稿文が、あるいは、その問いの一つのヒントとなるであろう。下記にこの寄稿文から抜粋した黄会長の言葉を記し、台北俳句会の紹介を締めくくりたいと思う。

²¹ 2015年5月29日付磯田氏へのインタビューによる。

「よく聞かれる。言葉を奪われたことをどう思うか、と。だが、世界の歴史を繻(ひもと)けば、ある国が他国を侵略し、ある民族が他民族の言語を奪うことなど、当たり前前に繰り返されてきたことだ。弱者が強者に逆らえるはずもない。今さら何を言うつもりもない。

私は日本語で考え、学び、創作してきた。妻は私に台湾語で小言を言い、それを息子が北京語でなだめる。何の不自由もない。私は多分、今後も日本語での創作を続けるだろう。誰のためでもなく、ただ自分のためだけに。」

(了)

*台北俳句会は、今年で設立45周年を迎える。台北俳句会の45周年記念大会は、2015年7月12日日曜日に、国王大飯店で行われる予定である。関心のある方は、是非下記台北俳句会事務局あてにご連絡をして頂きたい。本原稿執筆にあたっては、台北俳句会員である呉昭新先生、磯田一雄先生、下岡友加先生、阮文雅先生、杜青春先生に多大なご協力を頂いた。この場を借りて心よりお礼を申し上げたい。

台北俳句会事務局 杜青春先生

☎ 0910-128-169

㊚ 10699 台北郵局 53-384 信箱 (台湾)

Fax (02) 2707-8231

e-mail: taipeihaiku@gmail.com

入会及び45周年記念大会についてのお問い合わせは、上記メールアドレス宛にお願いいたします。

(参考文献)

- 黄靈芝(2003)「台湾歳時記と台湾俳句」『台湾俳句歳時記』言叢社
- 黄靈芝(2005)『台湾の俳句—その周辺ほか』集：俳句／世界の
HAIKU—ことばを折りたたむ／響きと新しみ「國文學：解釈
と教材の研究」學燈社編
- 磯田一雄(2006)「台湾における日本語文芸活動の過去・現在・未来—俳句を中心にその教育文化史的意義を点描する—」成城大学文学部紀要『成城文藝』第197号
- 磯田一雄(2007)「黄靈芝の俳句観と「台湾俳句」——台北俳句会における俳句指導(句評)を中心に——」成城大学文学部紀要『成城文藝』第201号
- 磯田一雄(2012)「戦後台湾における日本語俳句の進展と日本の俳句結社—『七彩』・『春燈』・『燕巢』とのかかわりを中心に—」大阪経済法科大学アジア研究所東アジア研究第57号、同(2008)「黄靈芝の俳句観の展開過程—「台湾俳句」に向かうものと超えるもの—」『天理台湾学会年報』第17号、同(2009)「台湾俳句における情報量の equivalence について」『天理台湾学会年報』第18号、同(2010)「植民地期台湾の日本語短詩文芸と戦後の再生」『天理台湾学会年報』第19号、同(2014)「日本統治期台湾と朝鮮における日本語俳句受容の比較研究序説」『東アジア研究』第61号など。
- 阮文雅(2008)「異国人の日本語文学—台北俳句会の一考察」植民地文化学会
- 下岡友加(2012、2013、2015)「戦後台湾の日本語作家の声 黄靈芝氏インタビュー(1)(2)(3)」県立広島大学人間文化学部紀要7、8、10

日台ビジネスアライアンスによる中国展開事例を探る—1

—杭州友嘉高松機械有限公司へのインタビューより—

アジア企業経営研究会 会長 藤原弘

(はじめに)

杭州友嘉高松機械有限公司はNC工作機械を製造する台湾の友嘉実業集団と日系企業である高松機械工業との合弁会社である。出資比率は友嘉実業が43%、高松機械工業が43%、豊田通商が14%となっている。高松機械工業は石川県白山市に本社を持つ工作機械メーカーであり、海外拠点は米国(シカゴ)、ドイツ(オブラス)タイ(サムトプラカン)、インドネシア(ベカシ)中国(杭州)を有し、中国は本社工場と並ぶ生産拠点である。

2015年3月に、杭州友嘉高松機械有限公司川上総経理を訪問し、インタビュー調査を行った。川上総経理は、杭州に6年以上駐在し、日本と台湾企業のビジネスアライアンスの狭間で、まさに中国の現場で地道に企業経営を行ってきた。本稿では、川上総経理より中国における台湾企業とのビジネスアライアンスのメリットのほか、杭州で感

じた日系企業の経営上の問題点において伺った貴重なインタビューの内容を紹介する。

会社名：杭州友嘉高松機械有限公司
 設立年月日：2004年12月21日
 資本金：737万米ドル
 投資総額：1720万ドル
 出資比率：友嘉実業43%、高松機械43%、豊田通商14%
 立地：杭州市蕭山区杭州江東工業園区
 董事長：李進成氏
 総経理：川上一仁氏
 従業員数：113名(設計8名)
 事業内容：工作機械(CNC旋盤)の製造・販売サービス(FMC)



(中国での自動化推進と人材育成)

杭州友嘉高松機械有限公司では、NC 工作機械製造を行う工場の計画月間生産能力は 150 台だが、実際の生産台数は 2014 年実績で 20 台であった。本社の生産台数が 150 台程度であるため、本社の生産体制に少しずつ近づいていけるよう、今後は月産 50 台を目標としているとのことであった。

本社での受注は 80% が自動化設備関連であり、中国での生産拡大は自動化設備の中国国内への内販を背景としており、これに準ずる形で同社は資金と人力を投入している。これは、中国沿海部での労賃上昇や人手不足等により、同社主要顧客である自動車関連企業が自動化設備の導入を進めていることも関係している。一方で、中国では日系企業のみならず中国ローカル企業等の顧客のニーズにも対応しなければならないといった問題もあるようだ。

中国での自動化設備の生産拡大は、当然のことながら、中国人従業員の技術研修をさらに強化すると同時に、中国人従業員の機械の操作に対する意欲を高めることにもつながったようだ。本社から日本人スタッフ 5 名を派遣して教育訓練を実施する一方、20 名の中国人スタッフを本社に出張させて 3 か月の研修を実施している。同社の製品に要求される高い品質を維持するために、現地人材育成は今後さらに推進される方向にあるが、こうした現地人材育成は、会社への人材定着の鍵として、今後益々重要になっていくものと考えられる。

(顧客満足度の高さが利益を生む)

同社の主要顧客は、電気関連、自動車関連等の

日系企業と中国のローカル企業をメインとしており、その内訳をみると、中国自動車関連部品メーカーと日本の自動車関連部品メーカーが半々である。また、こうした顧客企業も、同社から NC 工作機械等を再度購入する確率は 90% にも達しているとのデータがあり、顧客満足度の高い生産体制により、中国市場への販売は極めて安定していることが解る。友嘉集団とビジネスアライアンスを行うメリットとして、友嘉の中国における 60 か所の販売サービスネットワーク、有能な中国人、台湾人スタッフの活用、友嘉実業集団が傘下に持つ中国での工作機械 3 社が培った中国部品調達の活用及び各種ビジネス関連手続きに関する豊富な経験、特に中国でのビジネスのやり方に関する現場的なアドバイスを得られるといった点があげられた。しかし同時に川上総経理からは、「ビジネスパートナーとしての友嘉実業集団は高松機械工業同様に高品質の NC 工作機械の製造販売を目指していることから、同時に競争相手でもある。」という感想が聞かれた。中国ビジネスにはチャンスとリスクが同時に存在することを象徴する言葉といえよう。

また、中国顧客企業との取引条件に関しては、前払いが 30%、納品時に 70%、(友嘉は前払いが 30%、納品時に 60%、納品後 10%) という支払条件を徹底している。また、代金回収に関しては、友嘉集団及び日系代理店のネットワークやノウハウを活用できるというメリットを享受しており、多くの中国進出日本企業が直面している代金未回収問題はほとんどないとのことである。このような状況下において、2004 年に中国進出を果たした同社は、翌年の 2005 年には経営は黒字に転化しており、企業経営上の側面からみても、台湾企業

とのビジネスアライアンスのメリットは大きいといえよう。

(向上する現地調達率と現地人材の活用)

同社の主要顧客はトヨタ、日産、ホンダ、デンソーといった品質重視の自動車関連企業が多く、NC 工作機械、自動車部品等の品質をこれら顧客企業の条件に合わせながら、なおかつコスト削減を図らなければならない状況にある。これら NC 工作機械等の現地部品調達率は 60% (金額ベース) であるが、この内訳は中国進出日系企業が 60% を占め、残り 40% は中国部品メーカーとなっている。枢用部品は日系企業、台湾企業から調達しているが、今後はコスト削減のために中国部品メーカーの開拓が重要性を帯びてくることが予想される。同社の場合は友嘉実業集団が開拓した中国部品メーカーの活用がメリットとして考えられる。

同社の場合、中国では日本で設計した NC 工作機械などはリスト規制による法的制約もあり、高品質の NC 工作機械の設計図を日本から杭州工場に持ち出して生産することはできない。従って、同社では杭州工場で法順守の下、NC 工作機械を

製造販売する方向で生産体制を構築しているとのことである。現在のところ、設計部門は日本人 1 名、中国人 6 名のスタッフで、顧客の要求仕様に対応しているが、今後は自動化ニーズの増加とともに同部門の強化が必須となっているとのことであった。一方で、設計担当の日本人職員を簡単に本社の業務から外し、杭州工場に派遣することは、人的制限もあり難しいようだ。

いずれにしても同社は日本からの設計機能のシフト、生産ラインでの現地部品の活用拡大等の問題に直面し、現地人材の活用が一層重要となっているといえよう。

(難しくなる人材確保と今後の課題)

“高品質の製品を作るのに必要な「匠の心」をもつ技術要員”を確保することを同社は最も重視している。だが、同社所在地の江東工業園区は杭州市の中心部から車で 1 時間程度のところにあり、人材の確保が難しくなりつつあるとのことである。川上総経理によると、同社は能力があれば新卒採用、中間採用に関係なく採用するが、同工業園区は杭州市内から離れている事や中国政府の内陸部優遇政策等で内陸部から杭州への知的労働者



の流入が減ってきており採用は難しいとの話であった。

同工業園區では大卒の基本給は3,000元、高卒は2,800元であるが、給与が低いと当然のことながら転職率が高くなるので、住宅費、福利厚生などを充実させる必要があり、企業の負担は急増する方向にある。杭州の最近労働事情をみると、同社では発生していないが、他の企業では労働ストが発生した例も聞いているとのことであった。杭州市政府は外資系企業へ協力的であり、スト発生を抑制するような措置をとってきているが、近年の沿海部労働事情から労務管理の重用性が一層高まっている。

また、パートナー企業の友嘉は中国ビジネスを拡大する方向にあり、同社を含め敷地として関連企業工場の拡大を図るために14万坪の土地を購入する計画である。しかし、最近米国企業フォードが進出する等の誘致成功による杭州市内での政治的問題を契機として、中国市場においての慎重な対応が一層求められるようになっている。

(最後に)

今回の杭州調査では杭州友嘉集团董事长である陳董事長からの紹介で、当該日系企業の訪問を行ったが、同時に台湾企業の中国展開の実情や、特に中国でのプレゼンスの高さが見て取れた。今後日本企業が中国への投資を考慮するにあたり、日台アライアンスによる中国への共同投資という選択肢も視野に入れることで、海外投資のリスクヘッジを行うことも検討できよう。

*本稿は、東京大学経済学研究科新宅純二郎教授との合同調査による杭州でのインタビューデータを活用して作成している。本調査実施にあたっては、亜細亜大学アジア研究所所長の石川幸一教授をリーダーとするプロジェクトの研究助成を活用した。今回インタビューにご協力頂いた、友嘉集団陳向榮副総裁及び杭州友嘉高松機械有限公司総経理川上一仁氏および調査にあたり多くの示唆を頂いた東京大学新宅純二郎教授に心よりお礼を申し上げます。

台湾映画の異色の新人監督魏徳聖と先住民族

元読売新聞記者 戸張東夫

台湾は多様な種族、多元的文化を擁した複雑な社会である。このため台湾では種族同士が互いの相違を認めあって、平和に共存していくことが不可欠だ。ところが台湾の人口の圧倒的多数を占める漢族による先住民族に対する抑圧や差別がいまも根強く続いている。台湾映画はその影響でこれまで先住民のマイナスイメージを拡大再生産して来たのである。ところが最近先住民を登場人物や出演者に多数起用しながら、先住民差別など全く無視した映画が登場した。異色の新人映画監督魏徳聖（ウェイ・トォシェン）が2008年から2014年にかけて公開した『海角七号 君想う、国境の南』、『セデック・バレ 第一部太陽旗、第二部虹の橋』、『KANO 1931 海の向こうの甲子園』の三作品である。ラブロマンス、歴史ドラマ、野球少年の根性ものと、それぞれテーマも内容も全く異なっているが、先住民を区別せず、平等に扱う姿勢は一貫している。

※ 魏徳聖監督の三作品の原題は以下の通り。『海角七号』、『賽徳克・巴萊(上)太陽旗(下)彩虹橋』、『KANO』。

漢族の偏見と差別に苦しむ先住民族

先住民族を現地台湾では「原住民族」という。台湾人を構成する一種族である。南方の海から渡ってきたマレーポリネシア系といわれる。だが単一の種族ではなく、言語や風俗、習慣などの異なる14の種族に分かれている。オランダ人が台湾南部に上陸したのは17世紀前半だが、それよりずっと以前から台湾各地に広く居住していた。その後対岸の中国大陸の福建や広東から台湾海峡を渡ってきた漢族系の移住民が平地を占拠したこ

とから、先住民は追われるように山間部に移り済んだのだといわれる。このため蘭嶼島に残るヤミ族がいまなお海洋民族として生活しているのを例外として、ほとんどの先住民が山地住民になってしまい、「山地人」とか、「高山族」とよばれることになった。

山に登った先住民たちは今日に至るまで基本的には山地を中心に生活してきた。漢族が占拠する平地や都市には進出しなかった。このため戦後の高度経済成長や都市の発達からはすっかり取り残されてしまい、都市との格差に苦しみながら条件の悪い山地で暮さざるを得なかった。その後都市の経済活動が山地にも浸透し、山地の生活も変わり始めた。都市に“出稼ぎ”に行くものや、平地に移住するものも増加した。だが待っていたのは漢族の偏見と差別だった。先住民の男性は坑夫、漁船の乗組員、工事現場の作業員などきつい、汚い、危険な仕事だけ、女性はウエイトレス、女工ならいい方で、多くは風俗営業関係か売春婦というぐあいだった。教育や技術が不足しているのだから仕方がないと言えばそれまでだが。

先住民は人口三十余万人、台湾総人口の2パーセント弱。本省人（閩南人）、外省人、客家人、先住民の台湾四大エスニックグループの中で政治的にも経済的にも最も力のないグループだ。もっとも前三者はすべて漢人。先住民には太刀打ちできない勢力である。

戦後台湾の政治、社会は一貫して外省人と本省人との主導権争いを中心に展開してきた。このため漢族住民にしても先住民の境遇や困難について考える余裕がなかったのかも知れない。

※ 外省人は戦後国民党とともに中国から来たもの及びその子孫、本省人はそれより前の時期に中国から渡来したもの及びその子孫。

先住民族のマイナスイメージ、映画にも大きな責任

こうしていつの間にか先住民は無学、未開、粗野、乱暴というイメージが作られ、台湾社会に広がり、定着してしまっただけである。これには映画の責任が極めて大きいといわねばならない。何しろ映画は、先住民は酔っ払い、先住民は殺人犯、先住民は神がかり、先住民は売春婦とこれまで飽きずに言い続けていたのである。

たとえば李祐寧（リョウニン）監督が1984年に発表した『老兵の春（老莫的第二個春天）』。中国大陸で共産党軍に敗れ国民党軍に随って台湾にやってきたが、独身のまま歳をとってしまった下級兵士を老兵と呼んだ。1980年代になると、祖国中国に帰るのをあきらめ、台湾で結婚し、家庭を持ちたいと考える老兵もふえてきた。だが結婚するといっても、財産も地位もない、素寒貧の老兵の嫁になろうという女性はそう簡単には見つからない。そこで窮余の策として先住民の娘をお金で買って嫁にするという方法が広く行われたようだ。

この映画は先住民族の一つブヌン族の娘を買って嫁にした二人の老兵に焦点を当てる。「うまくいくわけがない」という近所の人たちのくちさがない声を背に、二人は喜び勇んで新生活をスタートさせる。だが一組は、嫁が若い男と出歩いて家に落ち着かないばかりか、麻薬に手を出して死んでしまう。残る一組は、波乱が全くなかったわけではないが、運よく嫁が意外にも誠実な、心根の優しい女で、妊娠して老兵を喜ばせる。映画はこの二人の明るい明日を暗示してハッピーエンドとなる。だが先住民の娘をこんなぐあいに扱ってよいものかどうかとか、これらの娘の苦しみや境遇

はいかばかりかということには全く無関心なのである。テーマはあくまでも外省人の老兵なのだ。

萬仁（ワンレン）監督の1999年の作品『超級公民』にはまた別の先住民族パイワン族の若者が登場する。山から両親を探しに台北に下りて来たパイワン族の若者は、滞在費を稼ぐため建築現場の作業員になる。だが現場主任からひどい言葉でののしられたため、若者はこの男を殺してしまい、結局殺人犯として処刑されてしまう。だが若者の靈魂は台北をさまよいながら、山の部落に帰りたいと歌う。先住民族は靈魂になっても台北という大都会に安住の地を見つけることが出来ないというかのようなのである。

またこの作品にはパイワン族の若者に対する同情、憐憫が感じられるが、これも台湾映画が先住民を取り上げるときに見せる共通点である。

先住民をテーマに取り上げ、パイワン族の若者を先住民族の一つアミ族のロック歌手張震岳（チャンチェンユエ）に演じさせたり、パイワン語を使ったりして従来の台湾映画とは違うものを感じさせたが、結局既成の先住民イメージを踏襲し、拡大再生産するだけに終わってしまったのは残念である。

このようにきわめて良心的でよく出来た作品でもこんなぐあいだ。長い間慣れ親しんだ既成の先住民イメージに変更を加えることはそれほど容易ではないということか。

魏徳聖監督は漢族も、先住民族も区別なし？

次に魏監督の三つの映画の先住民に対する扱い方というか姿勢というか、それを検証してみよう。映画のなかの先住民はどのような人物か、先住民の出演者はどのような人物を演じるのかを中心に、これまでの台湾映画の先住民イメージとも比較しながら各作品を具体的にみてみたい。魏監督の先住民観をある程度窺うことが出来るかもしれない。

なお先住民族のアミ、ルカイ、セデック、タイヤル、タロコ族が以下に新たに登場する。

『海角七号 君想う、国境の南』——これは、ミュージシャン志望の青年阿嘉（アガ）と売れない日本人モデル友子のラブストーリーだが、この作品の中心人物である阿嘉を演じるのがアミ族のシンガーソングライター范逸臣（ファンイイチェン）。地元の警察の交通巡査にパイワン族のミュージシャン民雄（ミンシヨン）、その父親役と同じパイワン族の俳優丹耐夫正若（タンナイフチョンルオ）。エピソードとして語られる60年前に日本人医師と実らぬ恋に落ちた台湾人女性小島友子には、ルカイ族の梁文音（レイチェル・リヤン）が扮している。

阿嘉のようなこの作品のいちばん重要な役を先住民に演じさせるとするのは、台湾映画の常識では考えられない。また警察官のような公務員の先住民族などこれまでの台湾映画に登場したことはないであろう。先住民は酔っ払いとか作業員だけだ。このような登場人物を先住民が演じることが出来たのは、漢人文化の強い台北から遠く離れた台湾最南端の町恒春をこの映画の舞台に設定したからだと思われる。

『セデック・バレ 第一部太陽旗、第二部虹の橋』



モーナ・ルダオ（中央）と反日武装蜂起に加わったセデック族の人たち。映画『セデック・バレ』より。

——1930年台湾中央山脈の中部に当たる霧社でセデック族の反日武装蜂起が起こった。「霧社事件」である。事件の発生から日本軍に鎮圧されるまでをアクションシーンの多い歴史ドラマにしたのがこの作品である。セデック族の反乱がテーマだから主要人物から、その他大勢のエキストラまで多数のセデック族が登場することになる。三百人ぐらい集めたらいい。歴史的にも有名な登場人物を少し紹介してみよう。

武装蜂起の伝説的リーダーモーナ・ルダオの壮年期をタイヤル族のキリスト教会の牧師林慶台（リンチンタイ）、青年期をタイヤル族の大慶（タァチン）が演じた。モーナ・ルダオの長男タダオ・モーナにセデック族の田駿（ティエンチュン）、長女マホン・モーナにタイヤル族の歌手温嵐（ランディ・ウェン）。先住民でありながら日本名を与えられ地元の日本警察に勤務していたため、この武装蜂起でどちらの側に加わるかで悩んだ悲劇の二人花岡一郎と花岡二郎にそれぞれタロコ族の徐詣帆（シュイイファン）とツォウ族、セデック族、漢族の血を引く蘇達（スウタア）、二人の先住民の妻川野花子にタイヤル族の羅美玲（ルオメイリン）、高山初子にタイヤル族の徐若瑄（ビビアン・スー）がそれぞれ扮した。ざっとこんなぐあいである。

先住民の出演者はほとんど映画は初めての素人ばかり、それでもモーナ・ルダオに扮した林慶台はこれ以上の適任者はいないといってもいい人物だった。いつもパイプを口にくわえながら坐っているが、いざ立ち上がると眼光鋭く、気迫に満ちている。幅広い肩、太く頑丈な四肢。それでも知性を感じさせる面構え。日本に反抗しても、残酷に鎮圧されるだけだと知りながら武装蜂起の先頭に立って突撃しなければならない悲劇の英雄にふさわしい人物である。もし林慶台がいなかったなら、セデックの武装闘争ももっとちっぽけなものに見えたに違いない。どこでこんな素晴らしい人

物を見つけてきたのかと魏監督に尋ねると、偶然だという。「実はモーナ・ルダオの候補者を一人みついていた。しかしどうしてもどこか違うという気がしてならなかった。撮影開始の時期が迫っていたので実は頭を痛めていた。そのとき偶然知人から宜蘭にいい人がいるから会ってみないかといわれた。あまり当てにしないでいってみると。林慶台だった。太い腕、丈夫そうな足、ひと目見てこの男だとピンときた。話してみると外見だけでなく、反抗的なところもあって内面的にもモーナに似ているということがわかった。キリスト教の牧師だということだったが、眼光鋭く、迫力があつた。」魏監督はこういう。映画ではこんな「偶然」がときに大きな役割を演じるのである。

『KANO 1931 海の向こうの甲子園』——KANOとは嘉義農林学校の略称「嘉農」を日本語読みしたもの。嘉農野球部チームは無名の弱小チームだった。だが新たにやってきた日本人監督が、日本人、漢族、先住民族選手を平等に扱うことを原則として、それぞれの長所を生かしながら独自の理論で生徒たちを指導し、1931年長年の悲願だった甲子園の全国中等学校優勝野球大会（現在の全国高校野球選手権大会）出場を果たし、しかも準優勝に輝くという見事な成果を収めた。この映画は監督と野球部員の奮闘努力を再現したもの。



甲子園の全国中等学校優勝野球大会で準優勝を勝ち取ったKANO（嘉義農林学校）の選手たち。映画『KANO』より。

甲子園に出場したチームの構成は日本人3人、漢人2人、先住民4人だった。この先住民選手はすべて先住民の出演者が演じた。出演者は鐘硯誠（チョンイエンチェン 先住民初のゴルフ選手）、謝竣捷（シエチュンチエ、学生）、張弘邑（チャンホンイイ、学生）、謝竣晟（シエチュンシェン、学生）、いずれもアミ族。この四人の選手にしても、台湾映画では先住民に演じさせるとは限らない。だからストーリーが当時野蛮人と蔑視、差別されていた先住民を他の民族と同等に扱うというところに重点を置いていること、先住民選手をすべて先住民に演じさせたというところがいかにも魏監督らしいと考えるのである。

映画の中で、「こんな異人種の混成チームで勝てるわけがない」「原住民がいては言葉が通じないだろう。これで意思の疎通が出来るのか」という先住民に対する無理解と偏見による発言を、嘉農チームの監督がきっぱり否定したシーンが二回あった。これは魏監督自身の考え方、信念でもあったに違いないが、他の二作品も含めて考えるに、魏監督にはもともと漢族とか、先住民といった人種の観念、したがって人種の区別がないのだと考えたほうが中っているのではあるまいか。

もう一つどうしても触れておきたいのは、この映画では魏監督が製作者に回り、監督には馬志翔（マァチシアン）を起用したことだ。馬氏は『セデック・バレ』に出演していたセデック族の俳優である。先住民の監督はこの人が初めてではあるまいか。

『セデック・バレ』でセデック語が映画デビュー

『セデック・バレ』でとりわけ強い印象を受けたのはセデック語である。4時間36分に及ぶこの歴史ドラマの中で大量のセデック語が使われているからだ。日本軍とセデック族の武装抗争がテーマだから日本語もかなりの頻度で使われている。

それに台湾語（閩南語）も中国語も聞こえた。確かにセデック語は部分的に用いられたにすぎない。しかし筆者の印象ではまるでセデック語映画とよぶのがふさわしいほどの迫力であった。台湾映画でこれほど多くの先住民族の言葉を使ったのはこの『セデック・バレ』が最初だと思う。セデック語を聴いたのはもちろんこれが初めてだ。このセデック語の雄叫びを聴きながら、「台湾映画はいまやっと台湾語はもちろん、こうして先住民族の言葉を誰はばかることなく、のびのびと使うことが出来るようになったのだ」という感慨を禁じえなかった。

思えば台湾映画は言葉の問題で長い間苦勞した。台湾の人口の最大多数を占める本省人の生活用語は台湾語である。だから戦後スタートした台湾映画史が台湾語映画から始まるのはごく自然の成り行きだった。だが台湾語映画は長くは続かなかった。1949年に中国大陸からやってきた国民党政府が中国大陸の北京語（国語）を公用語に決めたからである。政府当局は1952年、植民地時代に日本が強制的に台湾の人たちに使わせた日本語とともに台湾語の教学を厳禁、国語推進運動を台湾全土で展開したのである。台湾映画は正確で美しい国語を使うよう厳しく求められ、映画の登場人物は身分や出身を問わず、国語を話すよう求められた。いま華人映画のアカデミー賞といわれる台湾の映画賞「金馬賞」も1962年国語映画奨励

のために設けられたのである。

台湾映画はこうして長い間台湾語を使うことが出来なかった。状況が変わったのは80年代に登場した台湾ニューシネマからだ。ニューシネマの映画人が恐る恐る台湾語を使い始めたのがきっかけだった。また政治的にも経済的にも力をつけた本省人と国民党に拠る外省人の力関係が変化してきたことが背景にあることはいままでもあるまい。こうして台湾語は解禁された。だが先住民差別や偏見はなくならなかった。本省人、外省人ともに漢族だったので、両者の関係が変わっても先住民族に対する考え方はそのまま続いてしまった。そういうことなのだろうか。魏監督が三つの作品で実行した、先住民族を漢族と平等に扱う姿勢、『セデック・バレ』におけるセデック語の映画デビューなどは今後台湾映画の先住民族に対する態度、姿勢を変えさせる大きな力になるであろう。



魏徳聖監督（右）と筆者（2014年9月台北にて）。

2015年第1四半期の国民所得統計及び予測

2015年5月22日 行政院主計総処発表

I 概要

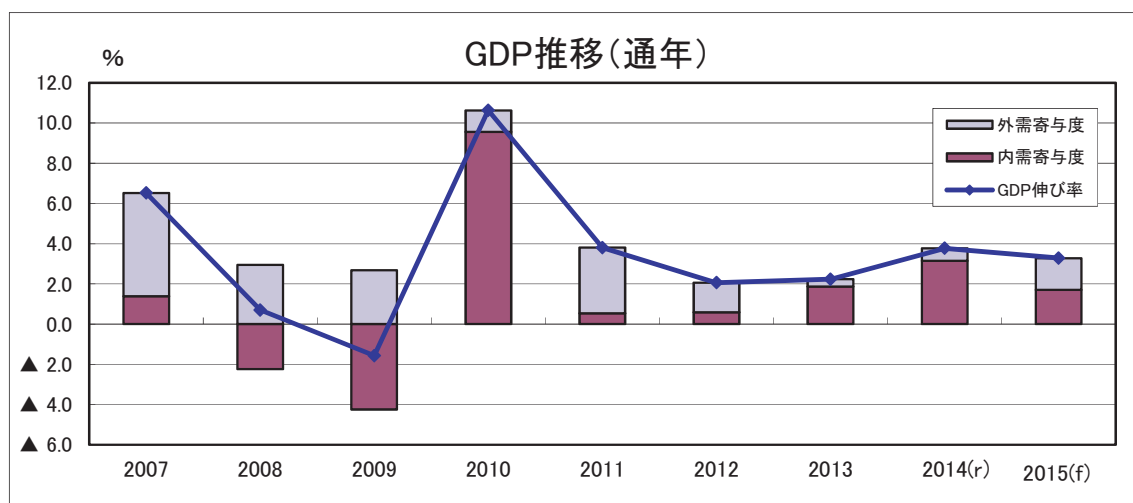
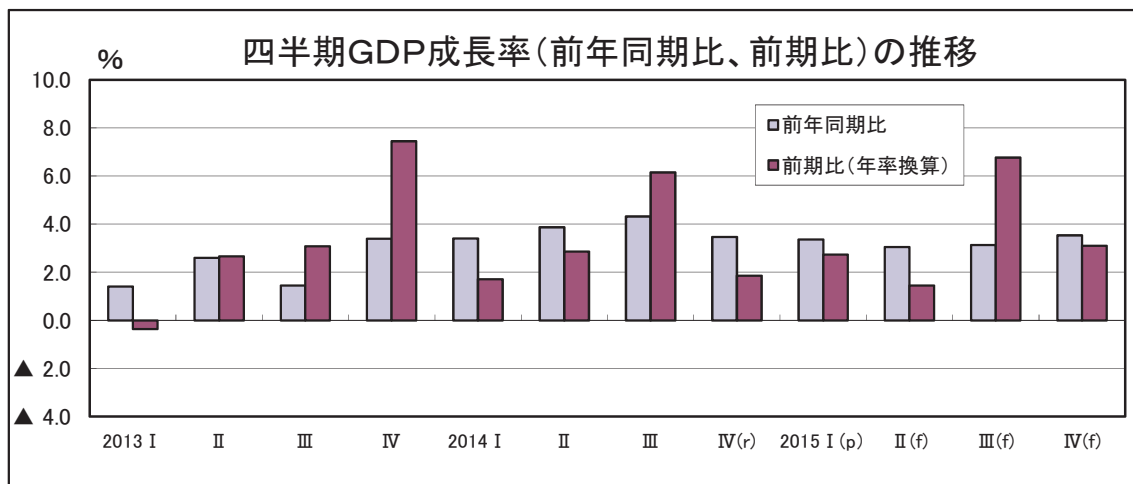
行政院主計処は、5月22日、2014年第4四半期の国民所得統計の修正、2015年第1四半期の国民所得統計（速報値）、及び2015年通年の経済見通しを発表した。

一、2014年第4四半期GDPの前年同期比成長率(yoy)を+3.47%に修正(修正前+3.35%)。第1～第3四半期と併せた2014年通年の経済成長率は+3.77%となり、前回の速報値(+3.74%)より0.03%ポイントの上方修正となった。また、一人当たりGDPは2万2,635米ドル

ル、一人当たりGNPは2万3,298米ドルとなった。

二、2015年第1四半期のGDP(yoy)速報値は+3.37%(4月時点の予測値+3.46%)となった。季節調整後の年率換算値(saar)は+2.74%となった。

三、2015年通年の経済成長率は+3.28%となる見通しであり、2月時点の予測値(+3.78%)より0.5%ポイントの下方修正となった。また、同年の一人当たりGDPは2万3,374米ドル、一人当たりGNIは2万4,118米ドル、CPIは+0.13%となる見通し。



Ⅱ 国民所得統計及び予測

一. 2014年の経済成長率は+3.77%

- (一) 2014年の第4四半期は、最新の主要指標に基づいて修正を行った結果、前年同期比成長率(yoy)は+3.47%となり、2月時点の速報値(+3.35%)より0.12%ポイントの上方修正となった。これは、主に各級政府の実際収支データ、経済部「工業生産調査」、及び上場・店頭会社の最新財務諸表資料に基づいて政府消費及び固定投資などの項目についてそれぞれ修正を行ったことによるものである。前期比成長率(季節調整後(saqr))は+0.46%、年率換算値(saar)は+1.86%となった。
- (二) 第1四半期+3.41%、第2四半期+3.87%、及び第3四半期+4.32%と併せた2014年通年の経済成長率は+3.77%となり、2月時点の速報値(+3.74%)より0.03%ポイントの上方修正となった。
- (三) 2014年の主要経済国の経済成長率は、台湾+3.77%、韓国+3.3%、シンガポール+2.9%、香港+2.5%、中国+7.4%、米国+2.4%、日本▲0.1%となった。

二. 2015年第1四半期の経済成長率(速報値)

2015年第1四半期の経済成長率(速報値)について、前年同期比成長率(yoy)は+3.37%となり、4月時点の予測値(+3.46%)より0.09%ポイントの下方修正、2月時点の予測値(+3.50%)より0.13%ポイントの下方修正となった。前期比成長率(季節調整後(saqr))は+0.68%、年率換算値(saar)は+2.74%となった。

(一) 外需について

- 2015年第1四半期は、世界経済成長率がやや伸び悩み、加えて石油、農工原材料などの価格の下落幅が大きくなったことにより、輸出(米ドルベース)は、前年同期比▲4.18%(台湾元ベースでは+0.20%)となった。うち、鉄産品(主にガソリン、ディーゼル)、化学品及びプラスチック・ゴム、及びその製品などは引き続き減退し、物価要因(輸出物価指数▲4.11%)を控除し、サービス貿易(三角貿易による純利益

の持続増加)を加えた商品サービスの実質輸出は+5.93%(2月時点の予測値+7.31%より1.38%ポイントの下方修正)となった。

- 輸入は、農工原材料価格の下落及び投資財の輸入が減少した影響を受け、第1四半期の輸入(米ドルベース)は▲14.96%(台湾元ベースでは▲11.08%)と2009年第4四半期以来の最低となった。物価要因(輸入物価指数▲13.32%)を控除し、サービス貿易を加えた商品サービスの実質輸入は+2.48%(2月時点の予測値+6.31%より3.83%ポイントの下方修正)となった。
- 輸出と輸入を相殺した外需の経済成長率全体への寄与度は+2.59%ポイントとなった。

(二) 内需について

- 2015年第1四半期は、日本、米国、欧州への観光の激増により、出国者数が同+12.13%となった。また、新車の売れ行きや携帯新商品の販売好調が続いた。他には、ガソリン・ディーゼル価格の下落が国民の海外旅行の意欲を押し上げたり、高速道路通行料金が同+11.37%となったり、ガソリン・ディーゼルの売上が同+5.48%となったりした。

ただし、1月に発生した鳥インフルエンザの影響を受け、飲食レストラン業売上額は僅か+1.88%、物価要因(CPI 外食価格+3.56%)を控除した場合はマイナスとなり、一部の消費の成長が頭打ちとなった。

以上のことなどから、2015年第1四半期の民間消費は前年同期比実質成長率が+2.52%、経済成長率全体への寄与度は+1.38%ポイントとなった。

- 民間投資は、国内航空業者による航空機の輸入が引き続き増加しているものの、半導体業者は資本支出規模を縮減し、建設投資も伸び悩みとなったことから、民間固定投資全体では+2.46%となった。実質政府投資は▲2.21%、公営事業投資は▲30.79%、実質在庫投資は▲11億元となり、

これらと併せた第1四半期の実質資本形成全体（前年同期比）では+1.29%となり、経済成長率全体への寄与度は+0.29%ポイントとなった。

3. 上記の各種項目に政府消費（▲2.19%）を加えた第1四半期の内需成長率は+0.88%、全体の経済成長率への寄与度は+0.78%ポイントとなった。

(三) 生産について

- (1) 第1四半期の農業生産成長率は+6.37%、工業生産成長率は+5.91%となった。モバイル技術の活用が日増しに拡大し、半導体、コンピューター設備及び部品などの増産を押し上げたこと、化学材料が在庫補填の需要増により次第に低石油価格の衝撃を脱したこと、自動化生産設備への需要拡大が機械設備の増産をもたらしたこと、石油価格の値下げが世界自動車市場の売上や自動車及びその部品業の増産にプラスとなったことなどから、第1四半期の実質製造業生産（速報値）は+7.06%（経済部製造業生産指数成長率+6.47%）、全体の経済成長率への寄与度は+1.91%ポイントとなった。

- (2) サービス業については、卸売業は石油価格の値下げにより、第1四半期の売上額が同▲1.04%となった。小売業は、多くが安定した成長となり、特に自動車・バイク、及び無店舗小売業の売上が良かったものの、石油価格の値下げの影響を受け、全体では小売業売上額は僅か+1.85%となった。卸・小売業の実質成長率は同+1.34%となり、経済成長率への寄与度は+0.22%ポイントとなった。

金融保険業では、第1四半期における金融機関の利息収支の純額が+0.96%、手数料収入が同+11.86%、上場（店頭）株取引額が▲13.51%となり、保険サービス及び投資信託顧問料などと併せた実質成長率は+2.56%、経済成長率への寄与度は+0.17%ポイントとなった。

運輸・倉庫業では、出国者数の持続的な増加に伴い、航空客数・貨物運搬量が同+

12.14%となり、台湾鉄道及び高鉄（新幹線）の運搬量がそれぞれ+2.66%、+5.82%となったものの、高速道路運行バスが▲2.85%となったため、第1四半期の運輸及び倉庫業の実質成長は+3.15%、経済成長率への寄与度は+0.10%ポイントとなった。

- 三、2015年第1四半期の経済成長率を発表した主要国についてみると、台湾+3.37%、韓国+2.4%、シンガポール+2.1%、香港+2.1%、中国+7.0%、米国+3.0%、日本▲1.4%となった。

四、2015年の経済展望

(一) 国際経済情勢

- 1、主要先進国の経済回復力が弱く、新興市場の成長の明らかな伸び悩みに加え、主要新興経済国の金融緩和政策が世界金融市場及び為替レートに大きな変動をもたらした、石油価格及び原材料価格の動向を左右しており、世界経済の不確実性が深まった。

- 2、世界的な経済予測機関である Global Insight の5月の最新の経済予測によると、2015年の世界経済の成長率見通しは+2.7%で、1月時点の予測値から0.3%ポイントの下方修正となる（うち第1四半期は0.1%ポイントの下方修正）ほか、2014年の+2.8%を下回る見通しである。

このうち、主要先進国経済は+1.9%（0.4%ポイントの下方修正）となり、昨年の+1.8%を上回る見通しであり、新興経済国は+3.6%（0.3%ポイントの下方修正）となり、昨年の+4.4%を下回る見通しである。

- 3、2015年第1四半期の米国経済は予測通りにならず、労働情勢改善のテンポが緩やかとなり、ドル高及び石油価格の低迷も輸出及びエネルギー関連の投資を抑制していることから、2015年は+2.3%（0.8%ポイントの下方修正）の成長となる見通し。

- 4、EU諸国では、ユーロレートの下落、金融緩和策、石油価格の低迷などの要因の影響が、企業及び消費マインドを引き上げ、経済回復にプラスとなることから、2015年は

	商品貿易年増率 (通関ベース、%)		貿易黒字 (億米ドル)	商品・サービス貿易の実質 成長率(台湾元ベース%)		商品・サービ ス貿易収支 (億米ドル)
	輸出	輸入		輸出	輸入	
2011年	12.26	12.02	268	4.20	▲0.46	338
2012年	▲2.30	▲3.90	307	0.41	▲1.78	381
2013年	1.41	▲0.21	355	3.51	3.34	478
2014年(r)	2.70	1.53	397	5.90	5.75	552
2015年(f)	▲2.62	▲8.75	554	4.69	2.88	752

+1.8% (+0.1%ポイントの上方修正)となる見通し。このうち、イギリスは+2.4% (0.3%ポイントの下方修正)、ドイツは+1.8% (0.2%ポイントの上方修正)、フランス及びイタリアはそれぞれ+1.2%、+0.6% (それぞれ0.3%ポイント及び0.1%ポイントの上方修正)となる見通し。

5、中国大陸は、経済構造の調整及び生産過剰の淘汰が持続し、成長力が頭打ちとなることから、2015年は+6.5% (1月の予測値と横ばい)となる見通し。日本は、消費税率の引き上げによる衝撃から次第に脱しつつあるのに加え、円安及び賃金引き上げ効果など好材料要因から、2015年は+0.8% (0.2%ポイントの下方修正)の安定成長となる見込み。その他、韓国は+2.6% (0.9%ポイントの下方修正)、シンガポール及び香港はそれぞれ+3.3%、+2.8% (それぞれ0.3%ポイント、0.2%ポイントの下方修正)となる見通し。

(二) 2015年の国内経済予測

2015年の経済成長率は+3.28%で、2月時点の予測値から0.5%ポイント下方修正する見通し。これは主に、世界景気の回復力が弱く、兩岸産業間の競争及び国際的なブランド競争が激しくなるため、内外需とも慎重な見通しへ転じたことによるものである。

1、対外貿易

(1) 2015年の世界経済成長率は+2.7%で、1月の予測値より0.3%ポイントの下方修正のほか、2014年の+2.8%を下回る見通しであり、これは台湾の輸出に不利となる。加えて中国大陸ではサプライチェーンの現地化が積極的に進み、台

湾企業に対する競争圧力が大きくなること、モバイル装置への需要が緩やかとなること、半導体の在庫消化待ち状況が続くことも、輸出の増勢を抑制すると見込まれている。

また、石油価格及び工業原材料価格が引き続き低水準で推移し、日本円やユーロの対米ドルレート的大幅下落趨勢も関連産品の名目輸出額の成長を抑制すると予測される。

(2) 2015年の米ドルベースの輸出額(税関ベース)は3,055億米ドルで、前年同期比▲2.62%となる見通し(2月時点より3.64%ポイントの下方修正)。物価要因を控除し、サービス貿易と併せた輸出は前年同期比+4.69%となる。輸入は、原材料価格の値下げ及び輸出及び内需の縮小から、2015年通年(米ドルベース)では2,501億米ドル、前年同期比▲8.75% (6.68%ポイントの下方修正)となる見通しであり、物価要因を控除し、サービス貿易と併せた輸入の実質成長率は+2.88%となる見通しである。

2、民間消費

就業人数の継続的な増加、企業の賃金引上

	民間消費名目金額 (億元)		実質成長率 (%)
		年増率(%)	
2011年	77,990	4.02	3.12
2012年	80,351	3.03	1.82
2013年	82,493	2.67	2.35
2014年(r)	85,551	3.71	2.95
2015年(f)	87,922	2.77	2.76

	固定投資名目金額(億元)			固定投資実質成長率(%)				
		民間	政府	公営事業	民間	政府	公営事業	
2011年	33,469	25,585	5,686	2,199	▲1.15	1.20	▲5.78	▲13.44
2012年	32,821	25,670	5,110	2,041	▲2.61	▲0.35	▲10.95	▲7.42
2013年	33,712	26,771	4,936	2,004	4.98	6.67	▲2.70	2.96
2014年(r)	34,716	28,013	4,602	2,100	1.84	3.46	▲8.04	4.42
2015年(f)	35,291	29,031	4,409	1,851	2.00	4.02	▲4.37	▲10.98

げ幅の拡大、株式配当額規模の拡大、所得の増加効果は消費マインドを押し上げるものの、景気に対する見方が保守的に転じ、加えて食品安全問題が短期的ながらも存在することが一部の消費に頭打ちとなることから、2015年の民間消費実質成長率は+2.76%となる見通し。

3、固定投資

民間投資については、国内航空業者の航空機購入金額が一部レンタル方式に変わることで減少し、建設投資も不動産市場の低迷により疲労感を呈しているものの、モバイル装置のハイエンドICチップに対する需要の増加の持続、インターネットを活用した物流、膨大な資料への対応など新たな応用分野の需要の増加などから、半導体及び関連供給業者による投資の継続が見込まれ、2015年の民間投資実質成長率は+4.02%の成長となる見通し。また、公共事業投資と併せた実質固定投資は+2%となる見通し。

4、物価

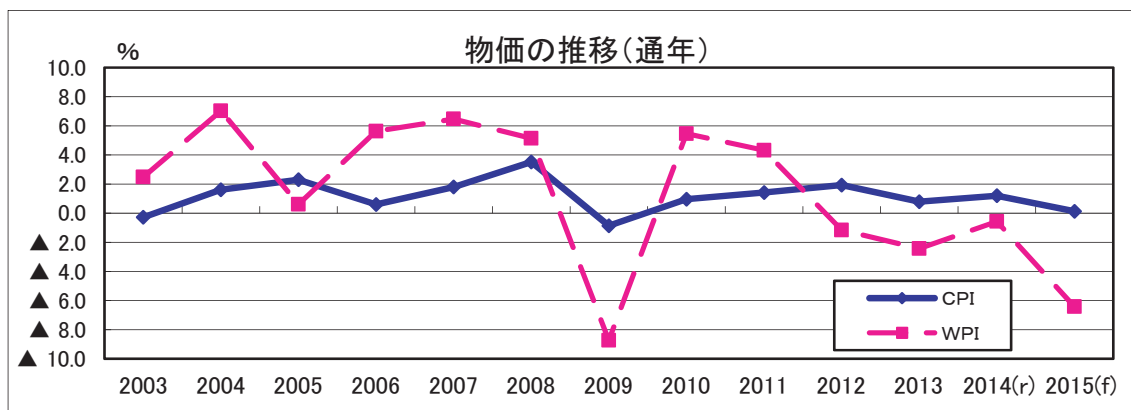
- (1) 国際石油価格は2014年と比べて大幅に下落しているものの、最近はやや反発。2015年のOPECのバスケット原油価格は1バレル=60.5米ドルとなり、2014

年のバスケット原油価格1バレル平均の96.3米ドルより35.8米ドルの下落となるものと想定。

- (2) 世界景気の減速、原油以外の原材料価格動向の軟調、加えて今年からの日本円及びユーロの対米ドルレートが大幅に下落し(1~4月平均が前年同期比それぞれ▲13.82%、▲18.87%)、台湾元の下落幅(▲3.62%)が比較的小さかったことから、2015年の卸売物価指数(WPI)は▲6.42%(2.50%ポイント下方修正)となる見通し。

- (3) CPIについては、燃料費が昨年に比べ低水準に推移し、電気料金が4月から新計算方式により安くなったことから、2015年は+0.13%の微増となる見通し(0.13%ポイントの下方修正)。

- 5、以上の要因を総合すると、2015年の経済成長率は+3.28%となる見込みであり、2月時点の予測より0.5%ポイントの下方修正となった。また、一人当たりGDP及びGNIはそれぞれ2万3,374米ドル、2万4,118米ドルとなる見込みであり、CPIは+0.13%となる見込みである。



重要経済指標

行政院主計処 2015年5月22日発表

	経済成長率(実質 GDP) (%)			一人当たり GDP		一人当たり GNP		消費者物価 上昇率 (%)	卸売物価 上昇率 (%)	名目 GDP (百万台湾元)
	前年 同期比	前期比 (年率換算)	前期比	台幣元	米ドル	台幣元	米ドル			
2001年	▲1.26	—	—	454,687	13,448	463,282	13,703	0.00	▲1.35	10,158,209
2002年	5.57	—	—	475,484	13,750	486,280	14,062	▲0.20	0.05	10,680,883
2003年	4.12	—	—	486,018	14,120	500,594	14,544	▲0.28	2.48	10,965,866
2004年	6.51	—	—	514,405	15,388	530,835	15,879	1.61	7.03	11,649,645
2005年	5.42	—	—	532,001	16,532	544,798	16,930	2.30	0.61	12,092,254
2006年	5.62	—	—	553,851	17,026	567,508	17,446	0.60	5.63	12,640,803
2007年	6.52	—	—	585,016	17,814	599,536	18,256	1.80	6.47	13,407,062
2008年	0.70	—	—	571,838	18,131	585,519	18,564	3.52	5.14	13,150,950
2009年	▲1.57	—	—	561,636	16,988	579,574	17,531	▲0.86	▲8.73	12,961,656
2010年	10.63	—	—	610,140	19,278	628,706	19,864	0.96	5.46	14,119,213
2011年	3.80	—	—	617,078	20,939	633,822	21,507	1.42	4.32	14,312,200
2012年	2.06	—	—	631,142	21,308	650,660	21,967	1.93	▲1.16	14,686,917
2013年	2.23	—	—	652,020	21,902	670,226	22,513	0.79	▲2.43	15,221,201
第1季	1.41	▲0.36	▲0.09	157,625	5,334	163,622	5,537	1.80	▲3.07	3,676,446
第2季	2.60	2.66	0.66	158,927	5,306	162,027	5,410	0.80	▲3.13	3,709,075
第3季	1.45	3.08	0.76	165,241	5,517	169,566	5,661	0.04	▲2.54	3,858,380
第4季	3.40	7.45	1.81	170,227	5,745	175,011	5,905	0.56	▲0.94	3,977,300
2014年(r)	3.77	—	—	687,438	22,635	707,542	23,298	1.20	▲0.57	16,084,003
第1季	3.41	1.71	0.43	164,640	5,423	171,935	5,663	0.80	0.07	3,848,723
第2季	3.87	2.86	0.71	167,510	5,554	172,685	5,726	1.63	0.68	3,917,365
第3季	4.32	6.15	1.50	174,762	5,814	178,954	5,953	1.51	0.01	4,089,643
第4季(r)	3.47	1.86	0.46	180,526	5,844	183,968	5,956	0.84	▲3.02	4,228,272
2015年(f)	3.28	—	—	723,895	23,374	747,000	24,118	0.13	▲6.42	16,985,093
第1季(p)	3.37	2.74	0.68	176,242	5,579	184,705	5,847	▲0.59	▲8.47	4,131,391
第2季(f)	3.05	1.45	0.36	176,452	5,716	182,100	5,899	▲0.54	▲9.16	4,138,383
第3季(f)	3.14	6.77	1.65	184,018	5,988	188,896	6,147	0.21	▲6.54	4,318,762
第4季(f)	3.53	3.10	0.77	187,183	6,091	191,299	6,225	1.39	▲1.34	4,396,557

r: 修正値、p: 速報値、f: 予測値

內需・外需寄与度 (对前年同期比)

(单位: %)

	GDP	国内需要						固定資本形成						国外需要								
		民間消費			政府消費			民間投資			公營事業投資			政府投資			輸出			輸入		
		成長率	寄与度	寄与度	成長率	寄与度	寄与度	成長率	寄与度	寄与度	成長率	寄与度	寄与度	成長率	寄与度	寄与度	成長率	寄与度	寄与度	成長率	寄与度	寄与度
2007	6.52	1.83	1.38	2.42	1.33	0.32	1.14	0.28	1.88	0.35	2.20	0.03	▲2.80	▲0.11	5.14	10.45	6.87	2.89	1.73			
2008	0.70	▲2.44	▲2.24	▲1.69	▲0.91	0.22	▲11.13	▲2.66	▲14.15	▲2.64	▲1.98	▲0.03	0.44	0.02	2.94	0.55	0.39	▲4.13	▲2.55			
2009	▲1.57	▲4.51	▲4.25	0.01	0.01	3.22	▲8.81	▲2.04	▲15.32	▲2.66	2.37	0.04	14.07	0.58	2.68	▲8.42	▲5.91	▲13.22	▲8.59			
2010	10.63	10.29	9.56	3.76	2.08	1.05	19.31	4.12	27.63	4.13	7.49	0.13	▲2.92	▲0.13	1.07	25.67	15.50	28.03	14.44			
2011	3.80	0.57	0.53	3.12	1.65	1.95	▲1.15	▲0.27	1.20	0.21	▲13.44	▲0.24	▲5.78	▲0.24	3.27	4.20	2.98	▲0.46	▲0.29			
2012	2.06	0.63	0.59	1.82	0.99	2.16	▲2.61	▲0.61	▲0.35	▲0.06	▲7.42	▲0.11	▲10.95	▲0.44	1.47	0.41	0.30	▲1.78	▲1.18			
I	0.78	▲1.38	▲1.22	1.95	1.19	2.25	▲8.40	▲2.01	▲7.62	▲1.46	▲11.31	▲0.14	▲12.13	▲0.42	2.00	▲2.92	▲2.12	▲6.29	▲4.12			
II	0.42	▲0.24	▲0.21	1.86	0.98	4.03	▲5.62	▲1.33	▲3.50	▲0.63	▲12.15	▲0.19	▲12.83	▲0.52	0.63	▲2.77	▲2.03	▲4.13	▲2.66			
III	2.31	1.11	1.01	1.46	0.79	0.73	0.94	0.20	4.00	0.71	▲9.55	▲0.14	▲9.45	▲0.37	1.30	3.32	2.32	1.89	1.01			
IV	4.63	3.07	2.65	2.02	1.03	1.78	2.90	0.59	7.44	1.03	▲1.11	0.00	▲9.88	▲0.44	1.98	3.82	2.81	1.64	0.84			
2013	2.23	2.01	1.86	2.35	1.29	▲1.15	4.98	1.11	6.67	1.16	2.96	0.04	▲2.70	▲0.09	0.37	3.51	2.48	3.34	2.10			
I	1.41	1.92	1.85	0.92	0.55	▲0.37	6.29	1.40	7.59	1.41	18.56	0.17	▲6.50	▲0.18	▲0.44	4.17	2.88	5.22	3.32			
II	2.60	0.97	0.92	2.45	1.34	▲1.71	5.11	1.16	7.66	1.37	3.05	0.04	▲6.99	▲0.25	1.69	4.64	3.28	2.49	1.60			
III	1.45	0.90	0.83	1.75	0.94	▲0.95	1.17	0.27	2.96	0.54	▲11.67	▲0.14	▲3.79	▲0.13	0.62	1.74	1.22	0.96	0.61			
IV	3.40	4.25	3.78	4.32	2.23	▲1.50	7.54	1.64	8.84	1.37	5.20	0.11	3.89	0.16	▲0.37	3.63	2.58	4.81	2.95			
2014(r)	3.77	3.46	3.14	2.95	1.60	3.69	1.84	0.41	3.46	0.61	4.42	0.06	▲8.04	▲0.26	0.63	5.90	4.10	5.75	3.47			
I	3.41	2.35	2.16	2.37	1.32	4.17	0.94	0.20	1.40	0.21	14.36	0.16	▲7.63	▲0.17	1.25	4.26	2.95	2.91	1.70			
II	3.87	3.50	3.18	3.30	1.79	2.35	1.63	0.35	4.32	0.77	▲14.82	▲0.19	▲7.34	▲0.23	0.69	5.03	3.52	4.70	2.83			
III	4.32	5.06	4.57	3.76	2.03	3.89	4.83	1.07	6.27	1.11	19.27	0.21	▲8.08	▲0.25	▲0.25	7.62	5.27	9.21	5.52			
IV(r)	3.47	2.90	2.60	2.38	1.26	4.29	▲0.01	0.01	1.70	0.34	4.46	0.05	▲8.74	▲0.38	0.86	6.50	4.53	6.09	3.67			
2015(f)	3.28	1.90	1.70	2.76	1.47	▲1.24	2.00	0.43	4.02	0.70	▲10.98	▲0.14	▲4.37	▲0.12	1.57	4.69	3.29	2.88	1.72			
I(p)	3.37	0.88	0.78	2.52	1.38	▲2.19	0.35	0.07	2.46	0.45	▲30.79	▲0.32	▲2.21	▲0.05	2.59	5.93	4.07	2.48	1.48			
II(f)	3.05	2.44	2.18	2.75	1.46	0.14	2.54	0.55	3.11	0.56	8.47	0.09	▲3.41	▲0.09	0.87	3.27	2.30	2.41	1.44			
III(f)	3.14	1.66	1.49	2.80	1.48	▲1.15	2.49	0.54	4.21	0.75	▲10.83	▲0.12	▲3.29	▲0.09	1.65	5.38	3.78	3.57	2.13			
IV(f)	3.53	2.58	2.28	2.98	1.54	▲1.72	2.51	0.53	6.48	1.01	▲11.03	▲0.23	▲7.05	▲0.26	1.25	4.29	3.04	2.99	1.79			

(出所) 行政院主計處 2015年5月22日發表

内需・外需寄与度（対前期比、年率換算）

（単位：％）

	GDP	国内需要				国外需要	
		民間消費	政府消費	固定資本形成	輸出	輸入	
2011							
I	8.40	2.97	4.06	8.80	▲ 2.51	9.92	2.30
II	▲ 0.85	▲ 2.34	0.30	▲ 3.49	▲ 7.18	▲ 2.21	▲ 4.52
III	▲ 0.04	▲ 4.61	3.55	6.49	▲ 26.31	▲ 8.37	▲ 15.69
IV	▲ 6.12	▲ 10.10	▲ 3.45	0.40	▲ 30.31	1.26	▲ 3.77
2012							
I	10.54	12.20	7.57	4.76	31.23	▲ 2.34	▲ 1.44
II	▲ 0.63	3.25	▲ 0.14	4.19	11.27	0.72	6.66
III	6.94	0.94	2.78	▲ 5.64	1.10	15.34	7.07
IV	0.93	▲ 3.41	▲ 2.13	4.81	▲ 11.47	1.08	▲ 5.08
2013							
I	▲ 0.36	7.57	4.79	▲ 5.04	24.54	0.42	12.17
II	2.66	▲ 0.98	3.54	▲ 1.04	▲ 11.04	3.36	▲ 1.83
III	3.08	1.24	1.45	▲ 1.59	2.65	1.57	▲ 1.23
IV	7.45	8.81	6.35	1.93	19.94	8.61	10.77
2014							
I	1.71	2.93	0.40	19.18	▲ 0.63	4.10	6.32
II	2.86	1.21	4.51	▲ 7.68	▲ 0.49	7.67	5.85
III	6.15	6.16	2.52	4.56	16.62	9.24	9.74
IV (r)	1.86	0.49	1.99	1.28	▲ 3.49	4.41	2.77
2015							
I (p)	2.74	▲ 3.30	2.16	▲ 6.33	▲ 13.77	2.32	▲ 6.53
II (f)	1.45	6.66	3.91	1.51	17.56	▲ 2.19	4.69
III (f)	6.77	2.93	2.95	▲ 0.90	5.42	17.09	12.85
IV (f)	3.10	3.78	2.46	▲ 1.14	10.33	1.28	1.91

（出所）行政院主計処，2015年5月22日発表

（注）▲はマイナス。外需のマイナス（▲）の寄与度は、GDPに対してはプラスの寄与度となる。

2015年第1四半期国際収支を公表

中央銀行は、5月20日、2015年第1四半期の国際収支統計を発表した。主な内容は、下記のとおり。

1. 概要

2015年第1四半期の国際収支統計によると、経常収支が220.0億米ドルの黒字、金融収支が188.4億米ドルの流出超、総合収支が38.1億米ドルの黒字（中央銀行準備資産の増加）となった。

2. 内訳

(1) 経常収支について

輸出は、昨年同期の国際石油価格がやや高く、今年第1四半期の石油及びプラスチック化学商品の輸出減少幅が大きかったため、前年同期比▲4.0%となった。輸入も、石油価格の値下げ及び資本設備輸入の減少により、同▲15.2%となった。輸入の減少幅が輸出の減少幅を上回ったことから、貿易収支は、前年同期と比べて70.9億米ドル増加し、139.6億米ドルの黒字となった。うち、鉱産品の赤字は前年同期に比べ59.6億米ドル減少した。

サービス収支は、三角貿易（台湾受注、中国出荷）の純収入の増加により、前年同期比0.5億米ドル増加し、30.2億米ドルの黒字となった。

所得収支は、外貨資産の投資所得の増加から、前年同期比2.0億米ドル増加し、58.1億米ドルの黒字となった。

経常移転収支は、海外仕送りの増加により、

前年同期比4.0億米ドル赤字が増加し、7.8億米ドルの赤字となった。

このように、経常移転収支の赤字が増加したものの、貿易収支、サービス収支及び所得収支の黒字が増加したことにより、経常収支は、前年同期比69.5億米ドルの増加（+46.1%）となった。

(2) 金融収支について

直接投資及び証券投資が、それぞれ16.6億米ドル、95.8億米ドルの流出超となった。このうち証券投資については、居住者による対外証券投資が、保険会社による海外証券への投資増加により、142.2億米ドルの流出超となった。非居住者による対内証券投資は、外資による株式投資の増加等により46.4億米ドルの流入超となった。

この他、金融派生商品は3.5億米ドルの流出超、その他投資は銀行部門による外貨資金が潤沢であり、海外借り入れの償還が増加したため、72.4億米ドルの流出超となった。

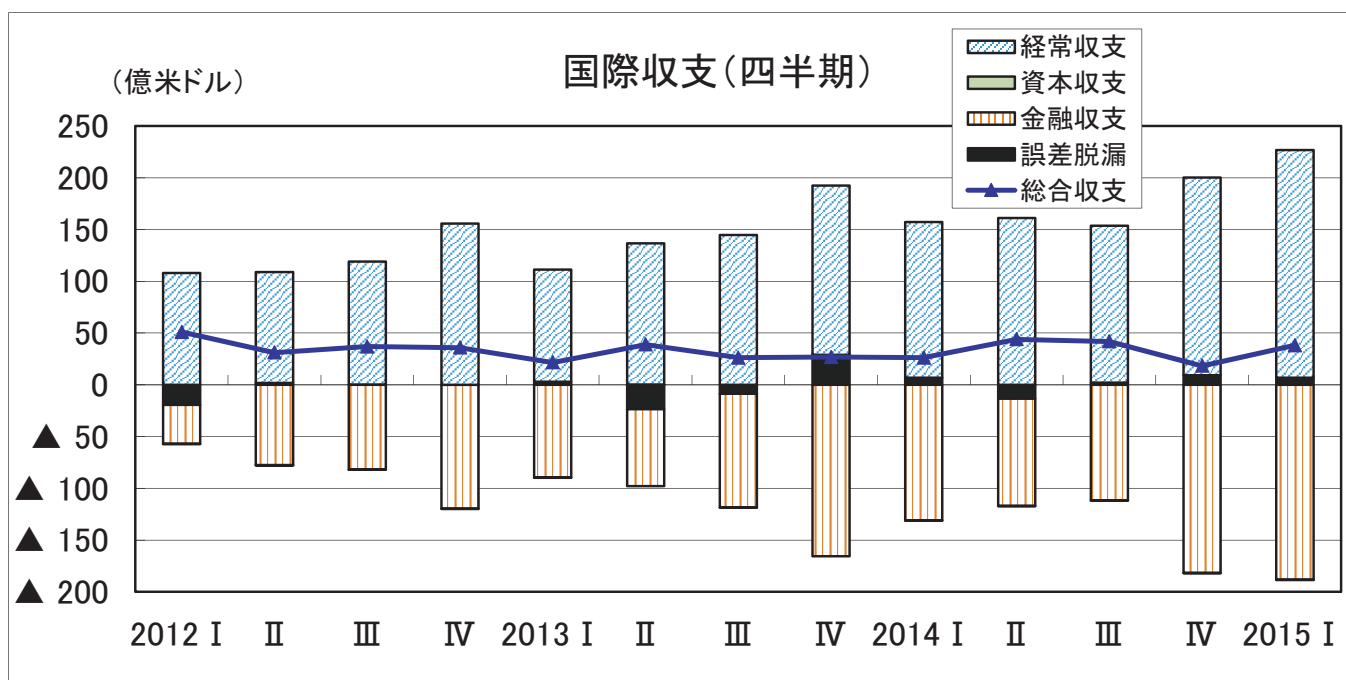
(注) 台湾と日本では、国際収支統計の項目が一部異なっており、台湾における「金融収支」は、日本の国際収支統計の「投資収支」に相当するもの。

国際収支の推移

(単位：億米ドル)

	2010(r)	2011(r)	2012(r)	2013(r)	2014(r)	2015				
						I (r)	II (r)	III (r)	IV (r)	I (p)
経常収支	384.4	399.1	490.2	553.1	654.2	150.6	161.0	151.6	191.1	222.0
貿易収支	251.0	265.5	299.2	354.5	415.3	68.6	102.1	102.7	141.8	139.6
輸出	2,724.1	3,059.9	2,990.5	3,032.3	3,114.5	727.5	795.0	806.4	785.7	698.4
輸入 (▲)	▲2,473.1	▲2,794.5	▲2,691.4	2,677.8	▲2,699.2	▲658.9	▲692.9	▲703.6	▲643.9	▲558.8
サービス収支	24.7	38.8	64.2	86.2	112.3	29.7	27.3	24.9	30.5	30.2
所得収支	135.8	131.8	153.0	142.4	154.6	56.1	39.9	32.4	26.1	58.1
移転収支	▲27.1	▲36.9	▲26.2	▲30.0	▲27.9	▲3.8	▲8.4	▲8.5	▲7.3	▲7.8
資本収支 (▲)	▲1.2	▲1.2	▲0.8	0.1	▲0.8	▲0.2	▲0.1	▲0.2	▲0.3	▲0.3
金融収支 (▲)	▲3.4	▲320.3	▲316.5	▲439.2	▲527.7	▲130.9	▲103.5	▲111.6	▲181.7	▲188.4
直接投資 (▲)	▲90.8	▲147.2	▲99.3	▲106.9	▲98.6	▲21.8	▲31.6	▲21.1	▲24.2	▲16.6
証券投資 (▲)	▲206.6	▲356.9	▲420.9	▲288.3	▲442.2	▲67.7	▲9.0	▲223.6	▲142.1	▲95.8
デリバティブ(▲)	5.8	10.4	3.3	7.7	2.8	1.3	1.7	2.4	▲2.6	▲3.5
その他 (▲)	288.3	173.5	200.4	▲51.6	10.3	▲42.7	▲64.7	130.6	▲12.9	▲72.4
誤差脱漏 (▲)	21.9	▲15.2	▲18.1	▲0.8	4.5	6.7	▲13.5	2.0	9.1	4.8
中銀準備資産変動(▲)	▲401.7	▲62.4	▲154.8	▲113.2	▲130.2	▲26.2	▲43.9	▲41.8	▲18.2	▲38.1

(出所) 2015.5.20 中央銀行発表 r : 修正値 p : 速報値



3年間の交流協会での勤務を終えて

福増 伸一

私は、愛媛県からの派遣で、平成24年4月1日から平成27年3月31日まで公益財団法人交流協会に勤務しておりました。自治体としては、福岡県に次いで2例目、愛媛県としては初代の派遣職員として、平成24年度の1年間は東京本部において、平成25年度及び26年度の2年間は台北事務所において勤務したところ、3年間の派遣業務の概要、派遣を終えての所感などをご報告いたします。

まず、愛媛県から交流協会に職員を派遣することとなった経緯を簡単にご説明します。愛媛県の県庁所在地は松山市で、同市には松山空港がありますが、台湾においても、台北市には松山区があり、さらに台北市内には松山空港という世界でも類の無い同名の空港があります。さらに、松山市にも台北市にも全く同名の松山駅が存在するなど、偶然にせよ多くの共通点があります。

こうした共通点などが契機となり、まずは民間交流がスタートし、そこから松山市、さらには愛媛県と交流が広がる中で、愛媛県松山市の道後温泉と台湾台北市の北投温泉との交流などが生まれ、これら交流は台湾での愛媛県の知名度の向上にも繋がり、台湾からの愛媛県への旅行者の増加といった形としても目に見える結果が出るようになりました。

台湾が誇る世界一の自転車メーカーであるジャイアント社と愛媛県との交流も生まれ、愛媛県全体と台湾の交流が本格化する中、さらなる交流の拡大や愛媛県のかんきつ類等の台湾での販路拡

大、かねてよりの目標の一つであった松山空港発→松山空港着という世界でも類を見ない同名空港間でのチャーター便の就航の実現などを本格的に進めるため、愛媛県から台湾に職員を派遣し、現地の最前線で愛媛県と台湾の交流をサポートすることを目的として、交流協会への職員の派遣が決定し、私はその初代職員として着任しました。

字数も限られているため、簡潔なご報告となりますが、交流協会への派遣期間中には、念願であった上述の松山-松山チャーター便が就航したほか、しまなみ海道と日月潭との姉妹自転車道の締結、松山駅と松山駅の姉妹駅交流など、話題性に富む様々な交流が進んだほか、愛媛のものづくり企業の台湾での商談会の開催やかんきつ類のプロモーションなど、経済交流においても数多くの事業が展開され、現地でそれらの事業をサポートすることができました。

私が3年間の任期を終えたあとも、同様に愛媛県の職員が後任として切れ目無く台北事務所へ赴任しており、愛媛県が現地で事業を展開する上での貴重な足がかりとなっています。

ここまでは愛媛県職員としての観点での記載となりましたが、交流協会での3年間は、愛媛県の事業に限らず、寧ろ、交流協会の職員として経済交流や文化交流の数多くの業務を担当する機会をいただきました。

24年度は東京本部の貿易経済部において、日本の主に中小企業から参加を募集して台湾で開催される見本市に出展するなど、日本と台湾の経済交

流にかかる業務を担当するとともに、台北への赴任前に東京本部で勤務することで、交流協会の台湾での事業の全体像を把握するとともに、駐日台北経済文化代表事務所等との交流を通して、愛媛県一県だけではない、幅広い視点で台湾と日本の関係について理解することができました。

25年4月1日に台北事務所に着任しましたが、24年度の勤務経験をふまえていたため、非常にスムーズに新しい環境に馴染めるとともに、戸惑うことなく新たな業務をスタートできたと感じています。

台北事務所においては、経済交流のみならず、文化交流についても業務を担当することとなり、文化室と経済室を兼任する主任として、薬事規制、建設・鉄道交流などの経済室の業務を担当すると同時に、奨学金、青少年交流などを文化室として担当することとなりました。それに加え、四国の観光・経済交流も担当し、非常に幅広い業務を同時にこなすこととなりました。

同時期に複数の担当業務が重なり、さらに派遣元の愛媛県の台湾での事業も重なるような事態が何度もありましたが、同じ台北事務所で勤務する同僚や派遣元の理解・協力もあり、各業務に支障をきたすことなく無事にこなすことができ、自身にとっても非常に貴重な経験となりました。

担当した業務の中には、自治体では担当することの無いような性質の業務もありましたが、自治体での経験はそういった新しい業務を担当する上でも有用であることを実感し、また、台北事務所で経験した業務は、同じ業務が派遣元には無くても、それら業務の進め方などのスキルや業務を通して得られた人脈などは派遣期間が終了した後も役立つ大きな収穫となったと感じています。

台湾現地で生活し、そして台湾の方と仕事を進めてきた中で、個人的に特に印象的であったのは、日本において広く共有されているであろう台湾観は現実の台湾から離れつつある、ということを経験した点です。

例えば、八田興一技師など、日本統治時代のインフラ整備などについて、台湾で使用されている学校の教科書などにおいても肯定的な記述が見られます。他方、領土問題や歴史認識等には様々な意見があり、ニュースや新聞などメディアでは日本に対する厳しい意見も増えつつあります。台湾においてそういった現状を知ること、ただ単純に台湾＝親日と捉えるのではなく、様々な複雑な要素があり、それらを経てなお、日本と台湾は特別な絆をもった心と心の通い合うパートナーである、と実感できた点は、やはり台湾での勤務を通して得られた収穫の中でも重要なポイントであると考えています。

現在、台湾では若者を中心に韓流が大人気であり、また、中国からは非常に多くの観光客が押し寄せ、さらに、台湾の芸能界からも非常に多くの俳優や歌手が中国に進出するなど、台湾における情勢は目まぐるしく変化しています。

そういった変化を前に、これまでの先人の交流の実績のみを頼りに、台湾は親日であると安心してしまっているのではなく、これまでの良好な関係をベースとして、次世代の日本人と台湾人がより深く、幅広く交流を進めることで、急速に変化する社会情勢の中でも揺らぐことのない確かな日台関係を築いていけるよう、台湾での勤務を経験した一人として、業務内外のあらゆる点で微力ながら継続して関わっていきたいと思います。

(了)

台湾通信

オレノキヅカイハ・・・イッタイ

文 高雄事務所 坂田 / 写真 高雄事務所 大辻

台湾は、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、長いこと狂犬病洗浄国・地域としてあつかわれてきましたが、2012年から当局の要請により台湾大学等に委託し野生動物の疫病モニタリングを行っている。そんななか南投県で2頭、雲林県で1頭の原因不明で死亡したイタチアナグマを調査したところ、2013年7月に狂犬病に感染していたことが判明した。実に1961年以来となる狂犬病の発生である。

先のゴールデンウィークで、日本人の海外渡航先一位を獲得した台湾であります。ますます増加する日本から来られる観光客の皆様には、発症したら100%死に至る病気であることや、予防接種をしていたとしても、かまれた後にワクチン接種が必要であるとか、犬だけじゃなく他の野生動物からも感染するなど一定の情報は知ってほしいものです。

そこで今回は、台湾の犬の話。

台湾には野良なんだか飼い犬なんだかわからない犬がたくさんいる。道を歩いても落とし物に気を付けていない

とえらいことになる。バナナの皮よろしく「すってん」なんてことが起きると、いやはやしばらく「オーバー・

ザ・レインボー」虹の彼方へ行きたくなる。

しかし、リードをして散歩している犬はどれもこぎれいで、飼い主さんはビニール袋と水の入ったペットボトルをもって散歩に出かけている。

そんなある日私は、「えっ!？」という事件に遭遇することになるのである。

いつものようにバイクに乗って夜の宴会の会場へ向かっていた時、赤信号に引っかかったので、横断歩道の手前でバイクを止めた。

私の左から、一人の品のいい台湾のおじいさん

が手入れの行き届いたトイプードルを連れて、もちろん手には、白い半透明のビニール袋をもって、私の前を通り過ぎようとしていた。

私の目の前に来た時に、件のトイちゃんはもぞもぞし、横断歩道の中で「大」をする体勢に。

そこには、私のバイクのライトの光……。女の子か男の子かわからないが、落ちていてできないだろうと思い、私はライトをずらして用足しが終わるのを待った。赤信号が青信号に換わるまで、50秒、40秒・・・その間私は不自然な格好でライトをずらし続ける・・・25秒……。どうやら終わったようである。

あとは、品のいいおじいさんが「横断歩道に鎮座ましますもの」を取りやすいように、バイクのライトを戻した。

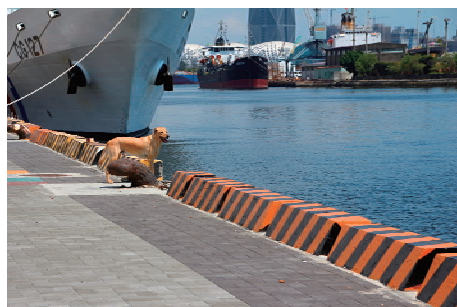
品のいいおじいさんは、屈んで「鎮座様」をとって・・・。「えっ!？」そのまま散歩を続けに行ってしまったのである。

忘れちゃったのかなあ？あのビニール袋はなんだったの？瞬時にいろいろな疑問が頭をよぎった。

後ろのバイクからのクラクションで我に返った私は、スポットライトを浴びていた「鎮座様」を踏まないようにゆっくりとバイクを走らせた。



澎湖島



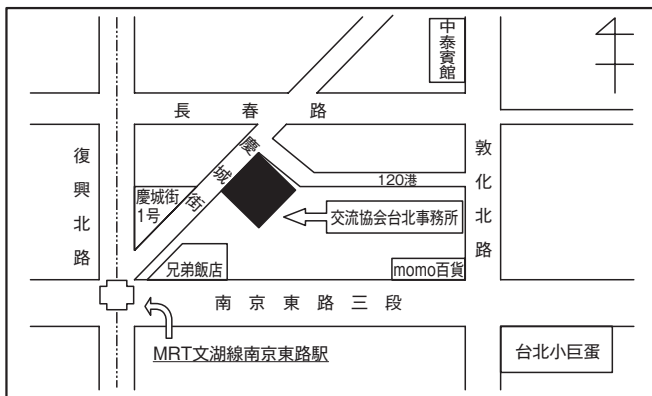
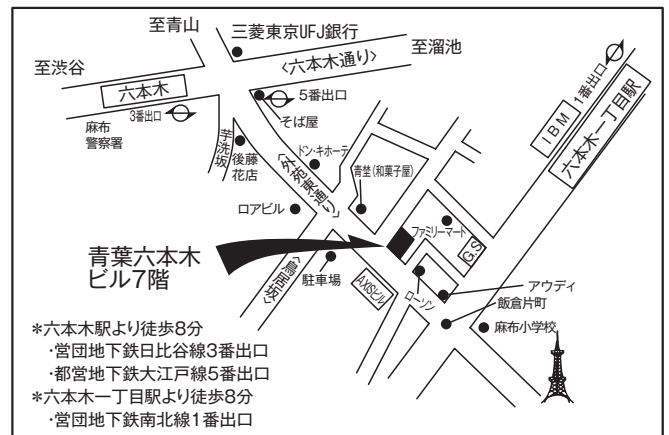
高雄港



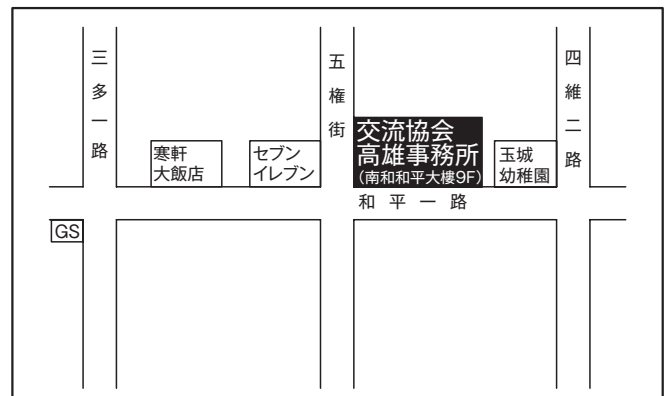
九份

平成27年6月25日 発行
 編集・発行人 舟町仁志
 発行所 郵便番号 106-0032
 東京都港区六本木3丁目16番33号
 青葉六本木ビル7階
 公益財団法人 交流協会 総務部
 電話 (03) 5573-2600
 F A X (03) 5573-2601
 U R L <http://www.koryu.or.jp>

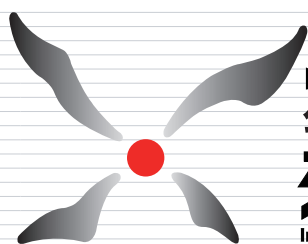
表紙デザイン：株式会社 丸井工文社
 印刷所：株式会社 丸井工文社



台北事務所 台北市慶城街28號 通泰大樓
 Tung Tai BLD., 28 Ching Cheng st., Taipei
 電話 (886) 2-2713-8000
 F A X (886) 2-2713-8787
 URL http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/Top



高雄事務所 高雄市苓雅区和平一路87号
 南和和平大樓9F
 9F, 87 Hoping 1st. Rd., Lingya Qu, kaohsiung Taiwan
 電話 (886) 7-771-4008 (代)
 F A X (886) 2-771-2734
 URL http://www.koryu.or.jp/kaohsiung/ez3_contents.nsf/Top



日本と台湾との架け橋

公益財団法人

交流協会

Interchange Association, Japan (IAJ)

